

ユーザース・マニュアル

KEYLAB
mkII

ARTURIA®
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

Special Thanks

ディレクション

Nicolas Dubois

Sebastien Colin

Frédéric Brun

ソフトウェア

Sebastien Colin

Olivier Delhomme

ハードウェア

Nicolas Dubois

Luc Walrawens

マニュアル

Randy Lee

Matthieu Courouble

Guy Perchard

Morgan Perrier

Germain Marzin

Florian Marin

デザイン

Glen Darcey

Sébastien Rochard

Axel Hartmann

© ARTURIA SA - 2018 - All rights reserved.

11 Chemin de la Dhuy

38240 Meylan

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に関する諸条件により、本マニュアルで説明されているハードウェア・ユニットとソフトウェア・プロダクトを供給します。許諾契約は合法的な使用のみと条件を指定します。Arturia S.A.の明確な書面による許可なく本マニュアルの一部、または全部をコピー配布することはできません。

また、本マニュアルに記載の他の製品、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標、または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 25 July 2018

KeyLab mkIIをお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは豊富な機能を内蔵したパワフルなキーボード・コントローラー Arturia **KeyLab mkII** の各種機能と操作方法をご紹介します。

本パッケージにふくまれるもの：

- KeyLab mkII本体
- USBケーブル
- アンチグラウンドループ・アダプター
- DAWコマンド・オーバーレイ・パネル
- クイックスタート・ガイド クイックスタート・ガイドにはKeyLab mkIIを使い始める際に役立つシンプルな操作手順や**本機の製品登録**と以下の付属ソフトウェアのアクティベートに必要なコードが記載されています：
 - Analog Lab 3
 - Ableton Live Lite

ご購入後、できるだけ早く製品登録をお済ませください！ 本機の本体底面にシリアルナンバーとアンロックコードが記載されたステッカーが貼ってあります。これらは、本機を**オンライン**で製品登録される際に必要となります。本機を破損してしまい、修理等が必要となった場合などに備えて、これらの情報をメモしておくか、写真に撮っておくことをお勧めします。

製品登録をされますと、次のようなメリットがあります：

- Analog Lab 3ソフトウェアがアクティベートでき、6,000種類以上のプリセット音色を使用できます。
- KeyLab mkIIオーナー専用のスペシャル・オファーを受け取ることができます。

使用上のご注意

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために本機の仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本機とその関連ソフトウェアは、本機をアンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

知識不足による、誤った操作により発生した問題に対するサポートは、保証対象外となり料金が発生します。サポートのご依頼をされる前に、本マニュアルを熟読し、販売店とご相談ください。

注意事項としては以下の通りですが、これらに限定されるものではありません：

1. 本マニュアルをよくお読みになり、ご理解いただいた上でご使用ください。
2. 本機の使用方法に従ってご使用ください。
3. 本機を清掃する場合は、最初に電源アダプターやUSBケーブルなどすべてのケーブル類を取り外してください。また、清掃は乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやアルコール、アセトン、テレピン油など有機溶剤を含むものは使用しないでください。液体クリーナーやスプレー洗剤、濡れた布も使用しないでください。
4. 本機を浴室やキッチンシンク、プールなど水がある場所の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
5. 本機を落下する恐れのあるような不安定な場所に設置しないでください。
6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機を過熱から保護する開口部や通気孔を塞がないでください。本機を暖房等の熱源の近くや風通しの悪い場所に設置しないでください。
7. 本機を開けたり、本体内に異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
8. 本機に液体をこぼさないでください。
9. 修理の際は必ず正規のサービス・センターにご相談ください。お客様ご自身で本体を開けたりされますと、保証対象外となります。また、不正な改造や調整は感電を起こしたり、故障の原因になります。
10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。距離が離れていても過電流等で本機が破損することがあります。
11. 本機を直射日光下に設置したり使用しないでください。
12. ガス漏れが発生している付近で本機を使用しないでください。
13. Arturiaおよび正規代理店は、本機の不適当な操作等が原因による破損やデータ損失につきましても責任を負いません。

はじめに

この度はArturia KeyLab mkIIをお買い上げいただき誠にありがとうございます！

KeyLab mkIIはあらゆるソフトウェア・インストゥルメントやDAWと組み合わせて使用できるMIDIコントローラー・キーボードです。コンピュータの操作に煩わされることなく、音楽制作に集中でき、作業効率を向上できるよう設計されています。また本機は、21種類のインストゥルメントにより作成された6,000種類以上のプリセットを内蔵したArturia Analog Lab 3ソフトウェアとシームレスに統合された状態で使用することができます。

本機の主な特長：

- あらゆるMIDIソフトウェア、プラグイン、ハードウェアと使用可能
- CVインプットと4系統のアウトプット（CV、Gate、Mod 1、Mod 2）を装備し、モジュラー・シンセサイザーとの統合が可能
- 主要なDAWほとんどに対応したトラック/トランスポート・コントロール機能を内蔵
- 欲しいサウンドを素早く見つけられるAnalog Lab 3プリセットの高速ソート機能
- ペロシティ&アフタータッチ対応の49鍵または61鍵セミウェイトド鍵盤を搭載
- ピッチベンド、モジュレーション・ホイールを装備
- MIDIアサインابل・ノブ、フェーダー、RGBボタンを各9個ずつ装備し、Analog Lab 3の操作に対応
- RGBマルチカラー・バックライトのペロシティ&プレッシャー対応のパッドを16個装備
- 豊富なプリセット（ユーザー設定可能）を内蔵したコード・モード機能内蔵
- MIDI Control Centerソフトウェアにより、各操作子のパラメーターアサインや本機全体の環境設定が可能
- 32文字LCDスクリーンを装備
- 豊富な接続端子：MIDIイン/アウト、USB、サステイン・ペダル、エクスプレッション・ペダル、その他のペダル（3系統）、CVイン、Pitchアウト（CV）、Gateアウト、Mod 1アウト、Mod 2アウト

最新のファームウェアやMIDI Control Centerのダウンロード、チュートリアルやFAQのチェックなど、Arturiaウェブサイト（www.arturia.com）もぜひアクセスしてください。本機が、素晴らしい音楽制作のお役に立てればと思います。

Musically yours,

The Arturia team

もくじ

1. 使い始める	4
1.1. KeyLab mkIIを接続する	3
1.2. フロントパネル（左側）	5
1.3. フロントパネル（右側）	6
1.4. リアパネル	7
1.4.1. 要注意ポイント：グラウンドループ	7
2. オーバービュー	9
2.1. キーボード	9
2.1.1. MIDIチャンネルを変更する	9
2.1.2. キーボード・ショートカット	9
2.2. ピッチ & モジュレーション・ホイール	10
2.3. オクターブ切替とトランスポーズ	11
2.3.1. オクターブ設定	11
2.3.2. トランスポーズ設定	11
2.3.3. トランスポーズの解除	12
2.4. コード・ボタン	12
2.5. パッド・モード・ボタン & パッド	13
2.5.1. 3つのパッド・モード	13
2.5.2. パッドにMIDIノート割り当て	9
2.6. Analog Lab/DAW/Userモード	14
2.7. DAW Commandsセクション	15
2.7.1.トラック・コントロール / グローバル・コントロール	15
2.7.2. 8種類のDAWプリセット	16
2.8. トランスポート・コントロール	16
2.9. プリセット・ブラウザ & ディスプレイ	17
2.10. コントロール・ボタン	18
2.11. エンコーダー	18
2.12. フェーダー	19
2.13. フィルター/セレクト・ボタン	19
2.14. リアパネル	7
2.14.1. Controls/Pedals/CVイン	20
2.14.2. Pitch/Gate/Modアウト	20
2.15. その他の機能	21
2.15.1. グローバル設定	21
2.15.2. パニック・メッセージの送信	22
2.15.3. ファクトリー・リセット	22
3. Analog Lab モード	23
3.1. Analog Labと接続する	23
3.2. パート/ライブ選択	25
3.3. プリセットをブラウズする	26
3.3.1. Filterボタン	26
3.3.2. CategoryとPresetボタン	27
3.3.3. フィルタリングを解除する	27
3.4. エンコーダーとフェーダー	28
3.4.1. エンコーダー	18
3.4.2. フェーダー	19
3.4.3. Liveボタン	29
3.5. マルチを構築する	30
3.5.1. シングル・プリセットを選ぶ	30
3.5.2. Part 2を追加する	30
3.5.3. スプリット・ポイントを設定する	30
3.5.4. スプリット・モードを解除する	31
4. DAWモード	32
4.1. DAWモードのオーバービュー	32
4.2. DAWプリセットの選択	32
4.2.1. DAWプリセット・リスト	32
4.3.トラック/グローバル・コントロール	34
4.3.1.トラック・コントロール	34

4.3.2. グローバル・コントロール	34
4.4. トランスポート・コントロール	16
4.5. センター・ノブ：ジョグ・ホイールとしての使用	35
4.6. チャンネル/バンク選択	36
4.7.トラックの選択	36
4.8. エンコーダーとフェーダー	28
4.8.1. DAWモードでのエンコーダー	32
4.8.2. DAWモードでのフェーダー	32
4.9. DAWプリセット・コマンド・チャート	32
4.9.1. スタンダードMCU	39
4.9.2. スタンダードHUI	39
4.9.3. Ableton Live	39
4.9.4. Logic Pro X	40
4.9.5. Pro Tools	40
4.9.6. Cubase	40
4.9.7. Studio One	41
4.9.8. Reaper	41
5. ユーザー・モード	42
5.1. 全体コンセプト	42
5.2. ユーザー・プリセットの選択	42
5.3. プレイ・モードでのディスプレイ	42
5.4. コントローラー・バンクの選択	43
5.5. ユーザー・エディット・モード	44
5.5.1. エディットしたいコントローラーの選択	44
5.5.2. ユーザー・エディット・モードでのディスプレイ	45
5.5.3. キーボード	9
5.5.4. ホイール	48
5.5.5. パッド	49
5.5.6. DAWコマンド/ユーザー・ボタン	32
5.5.7. 3バンク分のコントローラー	13
5.5.8. ベタル/CV端子	44
5.6. 機能固定のコントローラー	52
5.7. プリセットの保存	52
6. コード・モード	53
6.1. コード・モードのオーバービュー	53
6.1.1. コード演奏の3つの方法	13
6.1.2. 動作の仕組み	54
6.2. コード・モード：キーボード	55
6.2.1. Chordボタンでコードをセットする	55
6.3. パッド：2つのコード・モード	46
6.3.1. パッド・コード・モード：色々な使い方	56
6.3.2. パッド用コードのセット方法	57
6.3.3. コード・トランスポーズ・モードの要点	57
7. CV / Gate / Modの接続	58
7.1. CVインプット・コネクタ	44
7.1.1. パラメーター（ユーザー・エディット・モード）	58
7.2. Pitch/Gate/Modを接続する	20
7.2.1. Pitchアウト	59
7.2.2. Gateアウト	59
7.2.3. Mod 1	59
7.2.4. Mod 2	59
7.2.5. パラメーター（ユーザー・エディット・モード）	58
8. MIDI Control Center	61
8.1. MIDI Control Centerとの接続	61
8.1.1. デバイス・メモリー	61
8.1.2. ローカル・テンプレート	62
8.2. MCCコントローラー・マップ	62
8.3. ホイールのカスタマイズ	63
8.3.1. ピッチ・ベンド	63
8.3.2. モジュレーション	63
8.4. ユーザー・チャンネルの選択	63

8.5. パッドのカスタマイズ.....	64
8.5.1. Pad Off.....	64
8.5.2. Pad MIDI Note.....	64
8.5.3. Padスイッチ・コントロール.....	64
8.5.4. Padプログラム・チェンジ.....	64
8.5.5. Padプリセット・チェンジ.....	64
8.6. Userボタンのカスタマイズ.....	66
8.6.1. User button Off.....	66
8.6.2. Userボタン・スイッチ・コントロール.....	66
8.6.3. Userボタン・プログラム・チェンジ.....	66
8.7. エンコーダーのカスタマイズ.....	67
8.7.1. Encoder Off.....	67
8.7.2. Encoder Control.....	68
8.7.3. エンコーダーRPN / NRPN.....	69
8.8. フェーダーのカスタマイズ.....	70
8.8.1. Fader Off.....	70
8.8.2. Fader Control.....	70
8.8.3. Fader RPN / NRPN.....	70
8.9. Selectボタンのカスタマイズ.....	71
8.9.1. SelectボタンOff.....	71
8.9.2. Selectボタン・スイッチ・コントロール.....	71
8.9.3. SelectボタンRPN / NRPN.....	71
8.9.4. Selectボタン・プログラム・チェンジ.....	71
8.10. キーボードのカスタマイズ.....	72
8.11. CVインのカスタマイズ.....	44
8.11.1. Mod CV max voltage.....	73
8.11.2. Mod CV Mode menu.....	73
8.12. ペダルのカスタマイズ.....	74
8.12.1. Pedal Off.....	74
8.12.2. Pedal Control.....	74
8.12.3. Pedalスイッチ・コントロール.....	75
8.12.4. ペダル・プログラム・チェンジ.....	75
8.13. Pitchアウトのカスタマイズ.....	59
8.14. Gateアウトのカスタマイズ.....	59
8.15. Mod 1 / Mod 2アウトのカスタマイズ.....	76
8.16. Device Settingsタブ.....	77
8.16.1. グローバル・パラメーター・セクション.....	77
8.16.2. DAWセクション.....	32
8.16.3. Analog Labセクション.....	23
8.16.4. Padsセクション.....	78
8.16.5. Keysセクション.....	78
8.16.6. MIDI Thruセクション.....	78
8.16.7. コンティニューアス・ペダル・キャリブレーション.....	78
8.17. ImportとExportボタン.....	78
9. ソフトウェア・ライセンス契約.....	79
10. Declaration of Conformity.....	81

1. 使い始める

1.1. KeyLab mkIIを接続する

KeyLab mkIIを使い始める前に、Analog Lab 3やその他の付属ソフトウェアをお使いのコンピュータにインストールすることをお勧めします。また、各ソフトウェアの製品登録とオーソライズも事前にお済ませください。これらの作業は[Arturiaウェブサイト](#)で行えます。

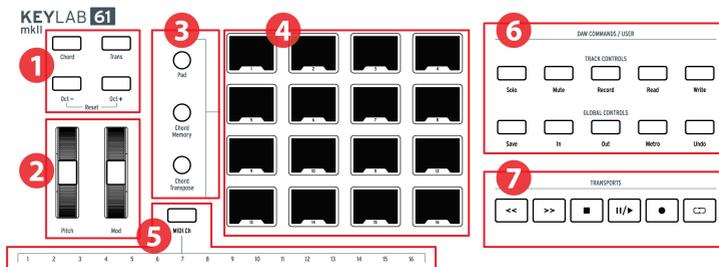
次に、KeyLab mkIIを付属のUSBケーブルでコンピュータに接続します。この時、本機の電源はコンピュータから供給されます。

本機はUSBクラスコンプライアント機器ですので、専用ドライバはコンピュータとの接続時に自動的にインストールされます。電源投入後数秒で使用できる状態になります。

コンピュータと接続せず、本機から外部機器をコントロールする場合は、DC9~12V 1.0AのACアダプター（別売）をご使用ください。この場合の接続例は以下の通りです：

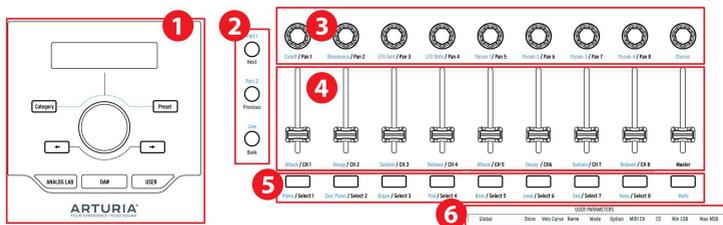
- **MIDI対応機器：** 本機のMIDIアウトと外部MIDI機器のMIDIインをMIDIケーブルで接続します。そこからデジチェーン的に他のMIDI機器へ接続することもできますが、接続する機器が多い場合はMIDIパッチベイが便利です。デジチェーンの場合、送受信するMIDIメッセージの量にもよりますが、各MIDI機器での信号遅延が積み重なって音楽的に影響が生じる場合もあります。MIDIパッチベイなら、このような問題を回避しやすくなります。
- **CV対応機器：** 本機のCVイン/アウト、Gate/Mod 1/Mod 2アウトとモジュラー・シンセサイザーを高品質の3.5mm TS（ミニジャック、モノ）ケーブルで接続します。

1.2. フロントパネル（左側）



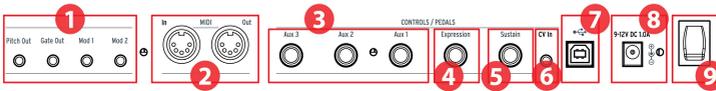
1. **Octave, Chord & Transposeボタン** オクターブ切替やトランスポーズ、コード機能のボタンです。
2. **Pitch & Modホイール** ピッチベンドやモジュレーションかける時に使用します。
3. **Padモード・ボタン** パッドの左側にある3つのボタンでパッド・モードを切り替えます。Padボタンはユーザー・プリセットから設定を選ぶ時に使用します。その下の2つのボタンはコード機能のモードを切り替える時に使用します。
4. **パフォーマンス・パッド** DAW上のサンプルをパッドで演奏したり、ソフト/ハード・インストールのコードを演奏したり、ポリフォニック・アフタータッチなどあらゆる種類のMIDIメッセージの送信にも使用できます。各パッドはそれぞれのモードで個別に機能を設定できます。
5. **MIDIチャンネル選択キー** MIDI Chボタンを押しながら鍵盤の最低音から16個のキーを押してMIDIチャンネルを選択します。
6. **DAWコマンド/ユーザー・セクション** このセクションでDAW（レコーディング・ソフト）のソロやミュートなどのトラック・コントロールを含む操作ができます。お使いのDAWが [プリセット・リスト \[p.32\]](#)にある場合は、付属のオーバーレイが便利です。
7. **トランスポート・コントロール** DAWの一般的なトランスポート・コントロール（録音、再生、ループ等）がこのセクションで行えます。トランスポート・コントロールは本機のモード（Analog Lab、DAW、ユーザー）に関係なく常に使用できます。

1.3. フロントパネル（右側）



1. **プリセット・ブラウザ & ディスプレイ** このセクションはAnalog Lab 3のプリセット選択のほか、メニューやパラメーター、プリセット情報が表示されます。
2. **コントロール・ボタン** Analog Labモードの場合、Analog Lab 3がマルチモードになっている場合のパートを切り替えたり、Liveタブの選択に使用します。DAWモードの場合は、DAWのトラック・グループ切替に使用します。
3. **エンコーダー** ソフトウェア・インストールのパラメーター調節やDAW上の各トラックのパンニング調節に使用します。
4. **フェーダー** ソフトウェア・インストールのパラメーター調節やDAW上の各トラックの音量調節に使用します。
5. **フィルター/セレクト・ボタン** Analog Labモードではプリセット選択時のフィルタリングに使用し、DAWモードではトラック選択に使用します。ユーザー・モードでは各ボタンに機能を割り当てることができます。
6. **ユーザー・パラメーター・キー** 鍵盤の高音部1オクターブはユーザー・エディット・モード [p.44]のショートカット [p.48]として使用できます。

1.4. リアパネル



- 1. Pitch/Gate/Modアウト** この4つのアウト・ジャックは、本機からコントロール電圧（CV）とトリガーを出力してモジュラー・シンセサイザーなどCV機器をコントロールする時に使用します。各信号の電圧レンジは**ユーザー・エディット・モード** [p.44]、または**MIDI Control Center** [p.61]で設定できます。
- 2. MIDIイン/アウト** MIDIコネクターは、本機をコンピュータとUSBで接続せずに外部MIDI機器をコントロールする時に使用します（この場合、別売のACアダプターで本機に電源を供給する必要があります）。MIDIインで受信した外部MIDI機器からのMIDIメッセージを、USBポートからDAWに出力することもできます。
- 3. Aux 1/2/3ペダル・イン** この3つのペダル・インにはペダルやフットスイッチを接続して各種コントロールに利用できます。各インポートのMIDI CC（コントロール・チェンジ）割り当ては、**本機上** [p.42]または**MIDI Control Center** [p.61]で設定できます。
- 4. エクスプレッション・ペダル・イン** このインポートにはペダルやフットスイッチを接続します。デフォルト設定ではMIDI CC#11を送信しますが、**本機上** [p.42]または**MIDI Control Center** [p.61]で変更できます。
- 5. サステイン・ペダル・イン** サステイン・ペダル・インは、接続したペダルの極性を自動判断しますのでサステイン・タイプのペダルなら何でも接続できます。また、**本機上のフロントパネルの設定** [p.42]または**MIDI Control Center** [p.61]での設定により、このインポートにエクスプレッション・ペダルなどのコンティニューアス・タイプのペダルも接続できます。
- 6. CVイン** モジュラー・シンセサイザーのCVアウトから本機にCVを入力する時にこのジャックを使用します。このインポートはCV-to-MIDI / CV-to-USBコンバータとして使用できます。電圧レンジは本機のフロントパネルまたは**MIDI Control Center** [p.61]で設定できます。
- 7. USBポート** 本機とコンピュータを接続する時に使用します。MIDIメッセージやコントロール情報の送受信のほか、本機の電源もコンピュータから供給されます。
- 8. 電源コネクター** 本機をコンピュータと接続せずに使用する場合、このジャックにDC9~12V 1.0AのACアダプターを接続します。
- 9. 電源スイッチ** USB動作の場合もACアダプター使用時もこのスイッチの動作は同じで、本機の電源オン/オフを切り替えます。スイッチが上でオン、下でオフです。

1.4.1. 要注意ポイント：グラウンドループ

2点間を電氣的に接続した時に、その間に不要な電流が生じることがあります。これがグラウンドループです。グラウンドループが発生するとオーディオ信号にノイズが生じ、通例では低音のハム音が混入します。コンピュータを使用するセッティングの場合、CV/Gate機器やオーディオ機器との間での接続で厄介なグラウンドループが発生することがあります。それを解消するのがアンチグラウンドループ・アダプターです。

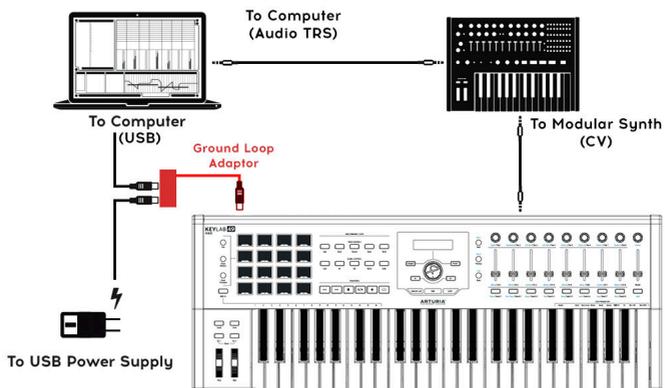
1.4.1.1. アンチグラウンドループ・アダプターを使うべきシチュエーションは？

ほとんどの場合、アンチグラウンドループ・アダプターは不要です。

グラウンドループが発生していない場合、本機とコンピュータを付属のUSBケーブルで接続したり、本機とDC9~12V 1.0AのACアダプター（別売）と接続するだけでOKです。

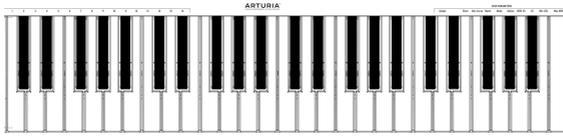
低音域のハム音が生じていて、本機のUSBポートからUSBケーブルを取り外したり、本機のCV/Gate端子からパッチケーブルを取り外すとハム音が消える場合、アンチグラウンドループ・アダプターが必要となります。グラウンドループが発生している場合、本機とCVで接続したアナログ・シンセサイザーのピッチ・トラッキングなどに悪影響を及ぼすことがあります。

アンチグラウンドループ・アダプターは下図のように接続します：



2. オーバービュー

2.1. キーボード



KeyLab mkIIはペロシティとプレッシャー対応のシンセアクション・キーボードを搭載しています。キーボードは、ユーザー・モードでパラメーターにアクセスする[ショートカット \[p.9\]](#)としても使用できます。例えば、MIDI Chボタンを押しながらキーボードの最低音から16個のキーのうち1つを押すとユーザーMIDIチャンネルを変更できます（以下セクション参照）。

2.1.1. MIDIチャンネルを変更する

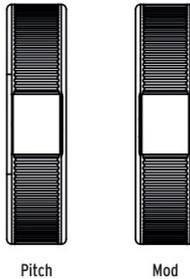
KeyLab mkIIのMIDIチャンネルは、MIDI Chボタンを押しながらキーボードの最低音から16個のキーのうち1つを押して変更します。この操作を行うと、本機のユーザーMIDIチャンネルが変更したチャンネルに切り替わります。

例えば、本機のMIDI出力チャンネルを8に変更するには、MIDI Chボタンを押しながらキーボードの一番低いGを押します。

2.1.2. キーボード・ショートカット

キーボードのうち、いくつかのキーはフロントパネルのボタンと併用することでユーザーMIDIチャンネルやグローバル設定、ユーザー・エディット・モードのパラメーターへのショートカットキーになっています。ショートカットのリストは、[こちら \[p.48\]](#)をご参照ください。

2.2. ピッチ & モジュレーション・ホイール



この2つのコントローラーでピッチベンドやモジュレーションのリアルタイム・コントロールができます。

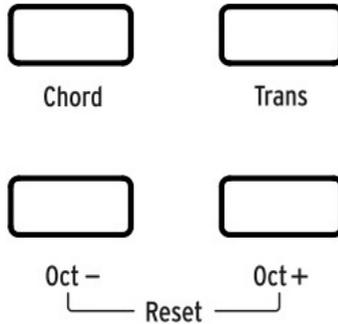
ピッチ・ホイールを上下に動かすと、演奏中の音程が上下に変わります。ピッチベンドの可変幅は、接続しているハードウェアやソフトウェア・インストゥルメント側で設定します。

モジュレーション・ホイールを上げると、選択した音色のモジュレーション量が上がってモジュレーションがかかります。モジュレーションの深さは、接続しているインストゥルメントの設定により変化します。本機のデフォルト設定では、モジュレーション・ホイールにはMIDI CC#1が割り当てられていますが、この設定はフロントパネル上 [p.42]またはMIDI Control Center [p.61]で変更できます。



♪ ピッチ・ホイールはMIDIピッチベンド・メッセージ固定で、他のMIDIメッセージに変更できません。

2.3. オクターブ切替とトランスポーズ



2.3.1. オクターブ設定

Oct-またはOct+ボタンを押すと、本機のキーボードの音程が1オクターブずつ上下します。

オクターブ設定を変更すると、変更の度合いに合わせてオクターブ・ボタンの点滅するスピードが変わります。1オクターブよりも2オクターブ変えた場合のほうが点滅するスピードが速くなります。

Oct-とOct+ボタンを同時に押すと、オクターブ設定の変更が解除されて元のオクターブに戻ります。



♪ オクターブとトランスポーズ設定はユーザー・マップ・プリセットに保存されます。

2.3.2. トランスポーズ設定

トランスポーズ機能は、キーボード全体の音程を半音単位で変更でき、曲を別のキーで演奏する場合などに便利です。

トランスポーズを設定するには、Transボタンを押しながら変更したいキーのルート音をキーボードで指定します。キーボードの中央Cよりも低いキーで指定すると音程が下がる方向に、中央Cよりも高いキーで指定すると音程が上がる方向にそれぞれトランスポーズします。また、キーボードのC（どのCでも構いません）を押すとトランスポーズが解除されます。

Transボタンが明るく点灯している場合、トランスポーズがかかった状態になっています。消灯している場合はトランスポーズが解除されています。

トランスポーズの設定は一時的にオン/オフすることができます。Transボタンが暗めに点灯している場合、トランスポーズ設定が一時的に解除されますが、トランスポーズ設定自体はメモリーされています。この状態でTransボタンをもう一度押すとトランスポーズ設定が復活します。



♪ トランスポーズは上下11半音の範囲で設定できます。それ以上に大きくトランスポーズさせたい場合はオクターブ設定と併用してください。

2.3.3. トランスポーズの解除

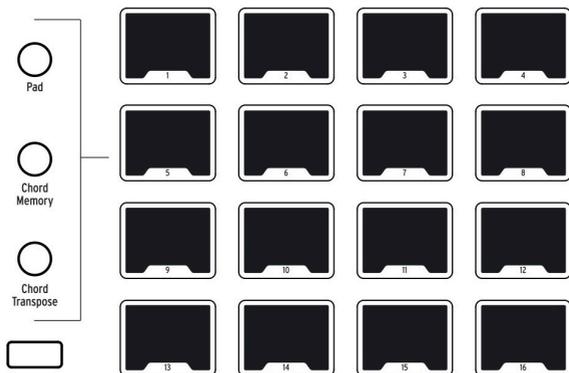
トランスポーズを解除するには、Transボタンを押しながらキーボードのいずれかのCを押します。すると、Transボタンが消灯してトランスポーズが解除されます。

2.4. コード・ボタン

Chordボタンはコード・モードのオン/オフ切替に使用します。コード・モードでコードを設定している場合、コードを指1本で演奏できます。この時、演奏する音程に応じてコードが平行移動します。コードの設定方法につきましては、[コード・モード・チャプター \[p.53\]](#)をご参照ください。

本機のパッドやコード・モードの詳細につきましては、次のページ以降をご覧ください。

2.5. パッド・モード・ボタン & パッド



KeyLab mkIIはベロシティ&プレッシャー・センス付きの多機能マルチカラー自照式パッドを16個装備しています。このパッドはポリフォニック・アフタータッチの送信も可能で、表現力に富んだコントロールができます。

パッドはドラムやパーカッション・パートの打ち込みや演奏でよく使われますが、KeyLab mkIIのパッドではコードのトリガリングやMIDI CCメッセージの送信、接続したソフトウェア・インストゥルメントや外部MIDIハードウェア機器のプログラム選択も可能です。また、[ユーザー・プリセットをエディット \[p.42\]](#)したりMIDI Control Center [\[p.61\]](#)を使うことでパッドごとに個別の設定ができます。

♪ コード関連のパッドの機能は[コード・モード・チャプター \[p.53\]](#)でご紹介します。その他のパッドの機能は[ユーザー・モード・チャプター \[p.42\]](#)とMIDI Control Center [チャプター \[p.61\]](#)でご紹介します。

2.5.1. 3つのパッド・モード

パッドの左側にはモードを切り替えるボタンが3つあります：

- **パッド・モード：** パッドを押すとMIDIメッセージを送信します。出力するMIDIメッセージは、[フロントパネル \[p.42\]](#)またはMIDI Control Center [\[p.61\]](#)で設定できます。
- **コード・メモリー・モード：** パッドごとにコードをメモリーでき、パッドを押すことでコードの演奏ができます。
- **コード・トランスポーズ・モード：** 各パッドにメモリーされているコードをキーボードで演奏できます。この時、ChordボタンはChord Transposeが点灯します。

パッドのコード関連の機能や動作につきましては、[コード・モード・チャプター \[p.53\]](#)をご参照ください。

2.5.2. パッドにMIDIノート割り当てる

デフォルト設定では、パッドに以下のノート・ナンバーが割り当てられています：



上図のノート・ナンバーの範囲は、キックやスネア、ハイハット、シンバルなどのMIDIドラム・マッピングでよく使われている音域です。また、パッドごとのノート・ナンバーの配置はライブなどで演奏しやすいものになっています。ノート・ナンバーの割り当ては、[ユーザー・エディット・モード \[p.44\]](#)または[MIDI Control Center \[p.61\]](#)のパッドのカスタマイズ [\[p.64\]](#)で変更できます。

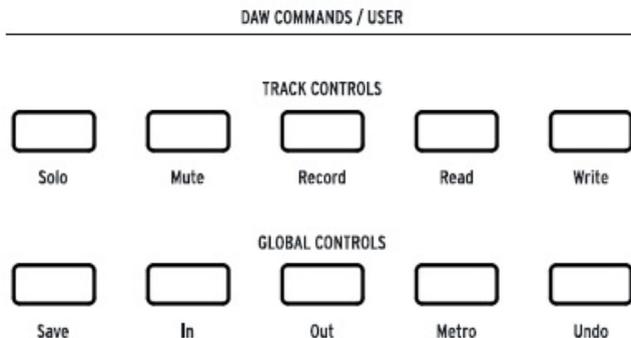
2.6. Analog Lab/DAW/Userモード



センター・ノブの下にはKeyLab mkIIのメイン・モードを切り替えるボタンが3つあります：

- **Analog Lab:** ノブやフェーダーがAnalog Lab 3のパラメーターをコントロールできるモードです。パラメーター名は青字でプリントされています。センター・ノブとその周囲のボタン、フェーダー下のボタンは、プリセット選択時のフィルタリングに使用します。
- **DAW:** フロントパネルのほとんどのコントローラーをレコーディング・ソフトウェアのコントロールに使用できるモードです。
- **User:** 独自のコントロール設定をメモリーした10種類のプリセットを使用するモードです。プリセットは[フロントパネル \[p.42\]](#)または[MIDI Control Center \[p.61\]](#)でカスタマイズできます。

2.7. DAW Commandsセクション



KeyLab mkIIのフロントパネル お使いのDAWに合ったオーバーレイをご使用ください

DAWボタンを押してDAWモードに入ると、フロントパネルの機能は様々なコントロールに対応できます。このモードはKeyLab mkIIでDAWをコントロールして作曲やレコーディングをする時に便利です。

2.7.1.トラック・コントロール / グローバル・コントロール

KeyLab mkIIは業界標準のMackie HUIプロトコルを採用し、下表のようなレコーディング・ソフトウェアの主要なコマンドのほとんどを使用できます：

セクション	ボタン	目的
トラック・コントロール	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックの録音
	Read	選択したトラック上にあるすべてのオートメーションを再生
	Write	選択したトラックのオートメーションを記録可能な状態にする
グローバル・コントロール	Save	プロジェクトの保存
	In / Out	パンチイン録音のスタート/エンド・ポイントの設定
	[1] Metro	DAWのメトロノームのオン/オフ
	[1] Project	プロジェクト選択画面を開く
	Undo	アンドゥ（ミスしたテイクの録り直しやトラックの消去などを1つ前の状態に戻す）

[1] Pro ToolsプリセットではMetronomeボタンではなくProjectボタンを使用します。

2.7.2. 8種類のDAWプリセット

DAWモードには8種類のプリセットがあり、その中の6種類は主要なDAWに対応しています。6種類のDAW [p.32]に対応したTrack/Globalボタンの機能名がプリントされたオーバーレイを付属しています。

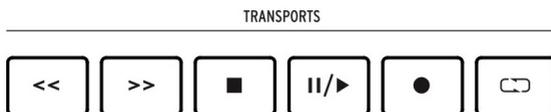
残りの2種類のプリセットはその他のDAWのコントロール機能（スタンダードMCUとスタンダードHUI）に対応しています。KeyLab mkIIのパネル上にプリントされているTrack/Globalボタンの機能名がMCU/HUIに対応したものです。

プリセットを選択するには、DAWモード・ボタンを約1秒長押しして、センター・ノブでDAWプリセットを選択します。

DAWモードの各種機能の詳細につきましては[DAWモード・チャプター \[p.32\]](#)をご参照ください。

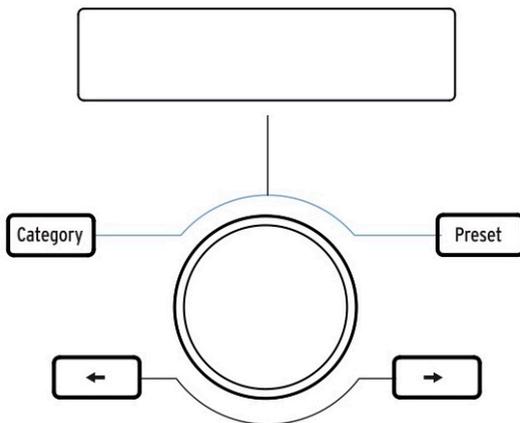
 お使いのDAWが[プリセット・リスト \[p.32\]](#)にない場合、そのDAWはMCUまたはHUIプリセットでコントロールできる可能性があります。お使いのDAWの説明書などでどちらのプロトコルに対応しているかをお確かめください。

2.8. トランスポート・コントロール



トランスポート・セクションには主要なトランスポート・ボタン（早戻し、早送り、停止、再生/一時停止、録音、ループ）があります。

2.9. プリセット・ブラウザ & ディスプレイ



KeyLab mkIIはパワフルなプリセット・ブラウザ機能とクリック可能なセンター・ノブでAnalog Lab 3のプリセット・サウンドを素早く見つけ出すことができます。

Analog Labモード [p.23]に入った状態で**Category**、**Preset**、**左右の矢印ボタン**でプリセットを選択します。このモードでは、これら4つのボタンがすべて点灯します。

ユーザー・エディット・モードでは、**左右の矢印ボタンのみ**を選択に使用しますので、この2つのボタンは点灯しますが、Category/Presetボタンは点灯しません。

Analog Labモードに入るには、センター・ノブの下にあるAnalog Labボタンを押します。Analog Labモードの詳細につきましては、Analog Lab 3のマニュアルまたは本マニュアルの**Analog Labチャプター [p.23]**をご参照ください。

ユーザー・モードに入るには、センター・ノブの下にあるUserボタンを押します。ユーザー・モードの詳細につきましては、**ユーザー・モード・チャプター [p.42]**をご参照ください。

2.10. コントロール・ボタン



コントロール・ボタンは、KeyLab mkIIのエンコーダー、フェーダー、ボタンの機能を切り替える時に使用します。これらの機能は選択したモードによって次のように変化します：

- **Analog Labモード [p.23]**: 3つのレイヤーにグルーピングされているコントローラー・セットの選択やマクロの選択（マルチモード時）に使用します。Liveボタンは**スプリット・モードのオン/オフ [p.30]**とスプリット・ポイントの設定時に使用します。
- **DAWモード [p.32]**: トラック・グループの選択に使用します。
- **ユーザー・モード [p.42]**: 3種類のユーザー・コントローラー・セットから1つを選択する時に使用します。

各モードの詳細につきましては、上記のリンクからそれぞれのページをご参照ください。

2.11. エンコーダー



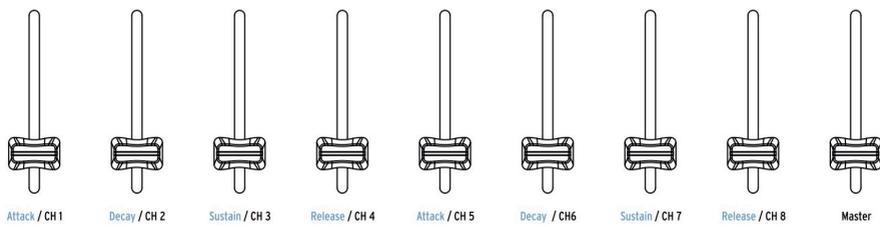
9個のロータリー・ノブはエンドレス・タイプのエンコーダーで2種類の機能があります。

Analog Labモード [p.23]：Analog Lab 3のパラメーターに対応しています。左から4個目までのエンコーダーは、9個目のエンコーダー（Chorus）のように、パラメーター名が青字でプリントされています。エンコーダー5～8に対応するパラメーター名は、プリセットにより変化します。

DAWモード [p.32]：DAWのミキサー・トラックのパンニングをコントロールします。

10種類のユーザー・プリセット [p.42]のそれぞれで、各エンコーダーに個別のMIDIコントロール・メッセージを割り当てることができます。1プリセット内には、9個のエンコーダーに割り当てた機能セットを3バンク分メモリーできます。また、エンコーダーごとに機能名を入れることができ、そのエンコーダーを回した時に機能名をディスプレイに表示させることも可能です。機能の割り当て等は**フロントパネル [p.42]**または**MIDI Control Center [p.61]**を使用して設定できます。

2.12. フェーダー



エンコーダーと同様、KeyLab mkIIの9本フェーダーにも選択したモードによって様々な機能があります。

Analog Labモード [p.23] では、フェーダー1~8でエンベロープのパラメーター（パネル青字）をコントロールします。フェーダー9はプリセットのマスター・ボリュームをコントロールします。

DAWモード [p.32] では、フェーダー1~8がDAWのチャンネル・フェーダーとして機能し、フェーダー9はマスター・フェーダーをコントロールします。フェーダーの左側にあるコントロール・ボタンでチャンネル・フェーダーのグループを切り替えることができます。

フェーダーも色々なタイプのMIDIメッセージを送信でき、各フェーダーにMIDIメッセージを割り当てたセッティングを3種類持った**ユーザー・プリセット**を10種類 [p.42]メモリーできます。MIDIメッセージの割り当ては**フロントパネルでの操作** [p.42]、または**MIDI Control Center** [p.61]を使用して行えます。また、フェーダーに機能名を付けることができ、フェーダー操作時にその機能名をディスプレイに表示させることも可能です。

2.13. フィルター/セレクト・ボタン



フェーダーの下にある9個のボタンも、選択したモードによって色々な機能があります。

Analog Labモード [p.23] ではピアノやリードなど、インストゥルメントのタイプ選択に使用します。タイプを絞ることで欲しいプリセットをより早く選び出すことができます。

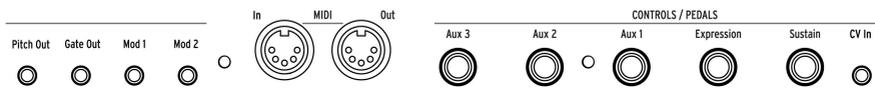
DAWモード [p.32] ではDAWのトラック選択として機能します。フェーダーの左側にある3つのボタンでトラック・グループを切り替えることができます。

ユーザー・モード [p.42] では、ボタンからMIDIコントロール・メッセージやノート・データ、プログラム・チェンジを送信できます。各ボタンに3種類の機能を割り当てた**プリセット**を10種類 [p.42]メモリーできます。機能の割り当ては、**フロントパネルでの操作** [p.42]または**MIDI Control Center** [p.61]を使用して行えます。



各ボタンは個別に点灯色を設定できます。これは**MIDI Control Center** [p.61]でのみ設定できます。

2.14. リアパネル



リアパネルは[使い始める \[p.4\]](#)でご紹介しました。ペダル端子とCV/Gate/Mod端子の詳細は[ユーザー・モード・チャプター \[p.42\]](#)と[CV/Gate/Modの接続 \[p.58\]](#)でそれぞれご紹介します。ここでは、それぞれを簡単にをご紹介します。

2.14.1. Controls/Pedals/CVイン

5つのペダル端子は個別にMIDIメッセージを送信できます。それぞれのデフォルト設定は各ジャックにプリントされていますが、どのジャックもフットスイッチとエクスペッション・ペダルの両方が使用できます。各ジャックの機能割り当ては[フロントパネルでの操作 \[p.42\]](#)または[MIDI Control Center \[p.61\]](#)で行えます。

CVインはユーザー・モードで外部機器からのCVをモジュレーション・ソースとして利用できます。CVインによるモジュレーションの動きはDAWにレコーディングすることもできます。詳細は、[ユーザー・モード・チャプター \[p.42\]](#)と[CV/Gate/Modの接続 \[p.58\]](#)をご参照ください。

2.14.2. Pitch/Gate/Modアウト

この4つのアウトはKeyLab mkIIでモジュラー・シンセサイザーをコントロールする時に使用します。出力する電圧レンジは[ユーザー・エディット・モード \[p.44\]](#)または[MIDI Control Center \[p.61\]](#)で設定できます。

2.15. その他の機能

2.15.1. グローバル設定

KeyLab mkIIには便利なキーボード・ショートカットがあります。すでにMIDIチャンネルを変更する [p.9]方法はご紹介しました。その他の機能につきましては、[ユーザー・モード・チャプター \[p.48\]](#)でご紹介します。

ここではKeyLab mkIIの全モード、全プリセットに関係するグローバル設定をご紹介します。

2.15.1.1. グローバル設定に入る

グローバル設定のチェックやエディット方法は次の通りです：

1. Userモード・ボタンを約1秒長押しします。するとボタンが点滅します。
2. キーボードの一番高いDを押します。この時、ディスプレイの上の行に「Global」、下の行に「LowPower」と表示されます。
3. センター・ノブを回してエディットしたいグローバル・パラメーターを探します。
4. センター・ノブをクリックしてパラメーターを選択します。
5. センター・ノブを回してそのパラメーターの値を変更します。

グローバル設定はMIDI Control Center [p.61]を使用してエディットすることもできます。この中には[ベダル・キャリブレーション \[p.78\]](#)などの機能も入っています。

2.15.1.2. グローバル設定チャート

名称	レンジ	内容
Low Power mode	On/Off	電源投入時のLED電飾シーケンスとヴェガス・モードのオン/オフ
Vegas mode	On/Off	一定時間操作をしない状態が続いた時のLED電飾シーケンスのオン/オフ
DAW Fader mode	Jump/ Pickup	フェーダー操作時のパラメーター値の反応モード設定
User Fader mode	Jump/ Pickup	フェーダー操作時のパラメーター値の反応モード設定
Pad Velocity curve	Lin/Log/Exp	パッドのペロシティ感度カーブ設定
Pad Aftertouch curve	Lin/Log/Exp	パッドのアフタータッチ感度カーブ設定
Pad Aftertouch minimum	0-127	パッドのアフタータッチ最小値の設定
Pad Aftertouch maximum	0-127	パッドのアフタータッチ最大値の設定
Keyboard Aftertouch curve	Lin/Log/Exp	キーボードのアフタータッチ感度カーブ設定
Keyboard minimum Aftertouch	0-127	キーボードのアフタータッチ最小値の設定
Keyboard maximum Aftertouch	0-127	キーボードのアフタータッチ最大値の設定
MIDI In to USB	On/Off	MIDIインからのMIDIメッセージのUSBポートへの出力オン/オフ
USB In to MIDI Out	On/Off	USBポートからのMIDIメッセージのMIDIアウトへの出力オン/オフ

2.15.2. パニック・メッセージの送信

キーボードを押したままの状態ですぐにインストゥルメントの切替などを行うと、音が止まらなくなってしまう場合があります。同様に、コントローラーのパラメーター値が予想外の値になってしまうこともあります。このような場合、全MIDIチャンネルに全コントローラーのリセットと、ノート・オフ・メッセージを送信する「パニック・メッセージ」を送信して対処することができます。

KeyLab mkIIでは、Stopボタンを素早く3回押すとパニック・メッセージを送信します。

2.15.3. ファクトリー・リセット

KeyLab mkIIを工場出荷時の状態に戻したい場合はファクトリー・リセットを実行します。これを行うと、本機が初期化されてすべての設定がデフォルト設定になります。

 **!** ファクトリー・リセットを実行すると10種類のユーザー・プリセットすべてを上書きして、デフォルト設定に戻します。ユーザー・プリセットを残しておきたい場合は、[MIDI Control Center \[p.61\]](#)を使用してバックアップを取ってください。

ファクトリー・リセットは次の手順で行います：

- リアパネルの電源スイッチでKeyLab mkIIの電源をオフにします。
- Oct+とOct-ボタンを押したままにします。
- 電源をオンにします。
- ディスプレイにファクトリー・リセットのメッセージが表示されます。
- ファクトリー・リセットを実行する場合は、センター・ノブを押します。

3. ANALOG LAB モード

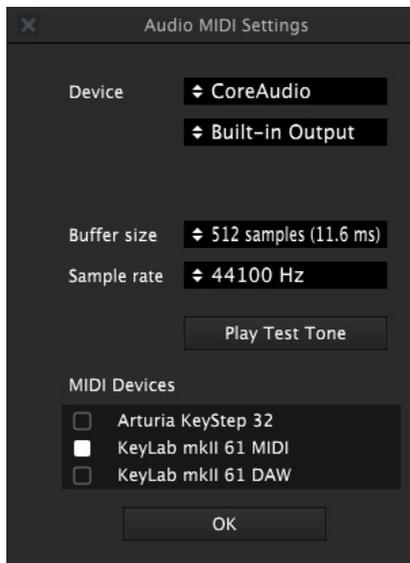
KeyLab mkIIは様々な音楽環境に対応可能であると同時に、付属のAnalog Lab 3ソフトウェア・インストールメントに完全対応しています。プリセットの選択からそのエディットやコントロールに到るまで、KeyLab mkIIとAnalog Lab 3は最強のコンビネーションです。

i このチャプターではAnalog Lab 3を操作するためのKeyLab mkIIの各種機能をメインにご紹介し、Analog Lab 3についても一部ご紹介します。Analog Lab 3の機能に関する詳細につきましては、Analog Lab 3のユーザー・マニュアルをご参照ください。

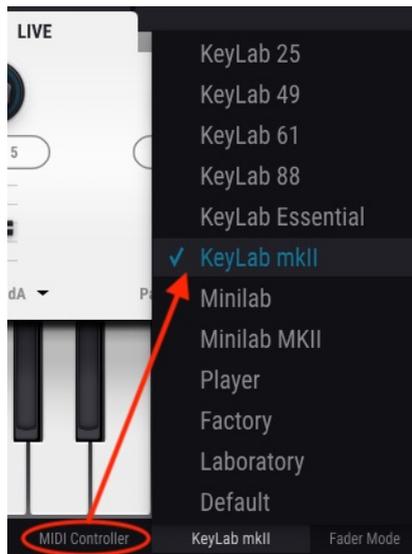
3.1. Analog Labと接続する

KeyLab mkIIでAnalog Lab 3を使用する前に、次の手順が必要となります：

- Analog Lab 3をダウンロードし、インストールし、アクティベートする必要があります。手順は[こちら \[p.3\]](#)をご参照ください。
- KeyLab mkIIとコンピュータを接続します。
- Analog Lab 3を起動します。
- KeyLab mkIIのAnalog Labボタン（センター・ノブの下にあります）を押してAnalog Labモードに入ります。
- キーボードを弾きます。Analog Lab 3が反応しない場合は、プリファレンスを開いて**MIDI Devices**ウィンドウでKeyLab mkIIを選択しているかどうかをチェックしてください（下図参照）。



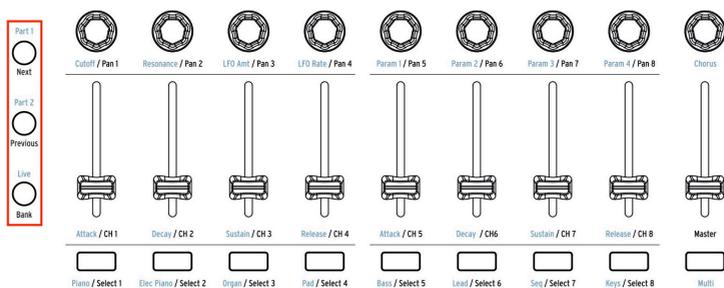
ここまでの手順が済みましたら、Analog Lab 3を起動すればいつでもKeyLab mkIIに接続します。ですが、初めてご使用になる場合は、Analog Lab 3の画面下部にあるMIDIコントローラー・フィールドでKeyLab mkIIを選択する必要があります：



上図のようなリストが表示されましたら、KeyLab mkIIを選択します。

i DAWモードに入っていて、選択しているトラックがAnalog Lab 3の場合、Analog Labモードに切り替えればこのチャプターで紹介するすべての機能を使用できます。また、Analog Labモードに入っているDAWコマンド・セクションとトランスポート・セクションはDAWモードと同様に使用できます。しかし、Trackセレクト・ボタンはAnalog Labモードではプリセット選択のフィルタリングに使用しますので、別のトラックやトラック・グループを選ぶ場合はDAWモードに切り替える必要があります。

3.2. パート/ライブ選択



エンコーダーやフェーダーなどのエリアの左側には、3つのコントロール・ボタンがあります（上図の赤枠）。**Analog Lab**モードではボタンの上の青字が選択されます：

- **Part 1:** シングル・インストゥルメントやマルチのパート1をコントロールする場合に選択します。
- **Part 2:** マルチのパート2をコントロールする場合や、シングル・プリセットに**セカンド・レイヤーを追加する [p.30]**場合に選択します。
- **Live:** マクロ・パラメーターやパートの音量/パンニングをコントロールする場合や、選択しているマルチのA/Bコントロールを送信する場合に選択します。Liveボタンを押してキーボードの1音を弾くと**スプリット・モード [p.30]**がオンになります。



♪: マクロはAnalog Lab 3で作成します。マクロとマルチの詳細につきましては、Analog Lab 3のユーザー・マニュアルをご参照ください。

3.3. プリセットをブラウズする

Analog Labモードでは、センター・セクションとFilterボタンでプリセットを選択します。Analog Lab 3には7,000種類近くの豊富なプリセットが入っていますが、KeyLab mkIIなら欲しいサウンドを簡単に選び出せます。

3.3.1. Filterボタン



Filter/Selectボタン

音楽制作をしている時には、例えばピアノやリード、シーケンスなど、欲しいサウンドのタイプがすでに分かっていることもあります。そのような場合にはFilterボタンがプリセット選びの出発点になります。Filterボタンはフェーダーの下にあり、9種類のカテゴリーが青字でプリントされています：

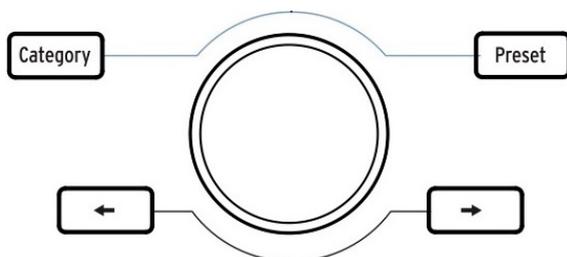
フィルター・タイプ	内容
Piano	アコースティック・ピアノ：コンサート・グランド、アップライトなど
Elec Piano	エレクトリック・ピアノ：スーツケース、ステージ、ウーリツァーなど
Organ	B3、Farfisa、VOX Continentalなど
Pad	シンセ・ストリングス、ボイス、その他パッド系
Bass	シンセ・ベース、オルガン・ベースなど
Lead	シンセ・リード（メロウなものからハードなものまで）
Seq	シーケンスやアルペジオ・パターン（モノフォニック、ポリフォニック）
Keys	シンセやバックিং向け楽器音など
Multi	スプリット/レイヤー音色

例えば、**Piano**ボタンを押すとフィルタリングによりピアノ系プリセットがロードされ、**Pad**ボタンを押すとパッド系プリセットがロードされます。

Filterボタンを押すと、そのフィルタリングにヒットしたプリセット名がディスプレイに表示され、プリセット名の左にアスタリスク（*）が表示されます。この状態で左右の矢印ボタンやセンター・ノブを操作するとその他にヒットしたプリセットにスクロールします。フィルタリングを解除する場合は、同じFilterボタンをもう一度押します。

Multiボタンを押した場合はマルチ・カテゴリーのプリセットがロードされ、2つのインストゥルメント名がディスプレイに表示されます。マルチ・モードの詳細につきましては、Analog Lab 3のユーザー・マニュアルをご参照ください。

3.3.2. CategoryとPresetボタン



Categoryと**Preset**ボタンは、センター・ノブでAnalog Lab 3のインストゥルメントやタイプ、スタイルを選んでプリセットの絞り込みサーチをする時に便利です。絞り込み条件はKeyLab mkIIのディスプレイにもAnalog Lab 3の画面上にも表示されます。

欲しいサウンドに適した絞り込み条件がありましたら、センター・ノブをクリックしてそれを選択します。選択した条件はAnalog Lab 3の画面に青枠が付いた状態で表示されます。センター・ノブをもう一度クリックすると条件選択が解除されます。

絞り込み条件の決定後、**Preset**ボタンを押すと条件にマッチしたプリセットをセンター・ノブでスクロールできます。センター・ノブをクリックするとプリセットが選択されます。

条件にマッチしたプリセットを素早くオーディションしたい場合は**左右の矢印ボタン**が便利です。この場合、センター・ノブをクリックすることなく矢印ボタンを押すだけで次のプリセットに切り替わります。

3.3.3. フィルタリングを解除する

すべての絞り込み条件を瞬時に解除したい場合は、センター・ノブを反時計回りに**Clear: All Sounds**ページまで回してノブをクリックします。また、Analog Lab 3の画面にある「Clear All」ボタンでも同じことができます。

3.4. エンコーダーとフェーダー

KeyLab mkIIの他のモードと同様、Analog Labモードでもディスプレイの右側にあるコントローラー群で色々な機能が使用できます。Filterボタンにつきましては[プリセットをブラウズする \[p.26\]](#)で紹介しましたので、次はエンコーダーとフェーダーについてご説明します。

 プリセットによってはフロントパネルにあるものとは違うコントローラーが割り当てられているものもあります。

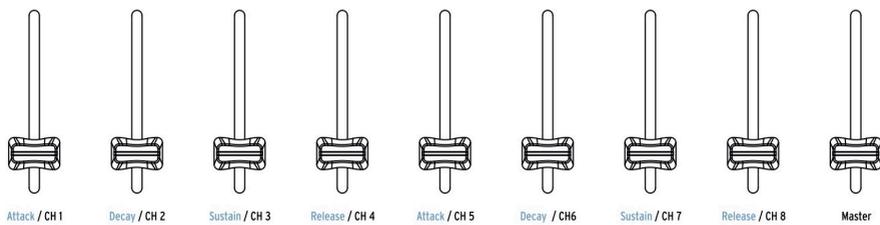
3.4.1. エンコーダー



エンコーダー下の青字の機能がAnalog LabモードのPart 1とPart 2で使用できます：

エンコーダー #	機能名	内容
1	Cutoff	フィルターのカットオフ・フリケンシー
2	Resonance	フィルター・レゾナンス（使用できる場合のみ）
3	LFO Amt	LFOモジュレーションの深さ
4	LFO Rate	LFOの周期またはサンプル/ホールドの周期
5	Param 1	アサインابل：プリセットによって変わります
6	Param 2	アサインابل：プリセットによって変わります
7	Param 3	アサインابل：プリセットによって変わります
8	Param 4	アサインابل：プリセットによって変わります
9	Chorus	コーラスのエフェクト・レベル

3.4.2. フェーダー



フェーダー下の青字の機能がAnalog LabモードのPart 1とPart 2で使用できます：

フェーダー #	機能名	内容
1	Attack	フィルター・エンベロープのアタック・タイム調節
2	Decay	フィルター・エンベロープのディケイ・タイム調節
3	Sustain	フィルター・エンベロープのサステイン・レベル調節
4	Release	フィルター・エンベロープのリリース・タイム調節
5	Attack	アンプ・エンベロープのアタック・タイム調節
6	Decay	アンプ・エンベロープのディケイ・タイム調節
7	Sustain	アンプ・エンベロープのサステイン・レベル調節
8	Release	アンプ・エンベロープのリリース・タイム調節
9	Master	Analog Labの出力ボリューム調節 (Part 1とPart 2)

3.4.3. Liveボタン

Liveボタンを押すと、Analog Labモードでエンコーダーとフェーダーに割り当てた機能の3つ目のバンクが選択されます。この時、Analog Lab 3のLiveタブが選択され、マクロがエンコーダー1~8に割り当てられます。マクロは、Part 1またはPart 2、あるいは両方で使用することができます。Liveボタンを押した状態では、フェーダー下の青字の機能はコントロールできません。

Liveタブではエンコーダーだけでなく、ミキサータイプの機能をフェーダーに割り当てすることもできます。パンニングやレベル、エフェクト・センドやリターン、その他のパラメーターをパートごとに割り当てられます。



Liveタブの詳細につきましては、Analog Lab 3のユーザー・マニュアルをご参照ください。

3.5. マルチを構築する

Multiモードでは、2つのプリセットをキーボードで同時に演奏できます。2つのプリセットを重ねて演奏できるレイヤーや、キーボードを2つに分割して別々のプリセットを割り当てるスプリットにすることもできます。

マルチの構築方法は次の通りです：

3.5.1. シングル・プリセットを選ぶ

最初にAnalog Lab 3のシングル・プリセットを選びます。どんなプリセットでも構いませんが、マルチ・プリセットではなくシングル・プリセットを選んでください。シングル・プリセットはAnalog Lab 3の画面にインストゥルメントが1つだけ表示されるプリセットです。マルチ・プリセットは画面に2つのインストゥルメントが表示されます。

シングル・プリセットを選ぶと、KeyLab mkIIのPart 1のみが使用できる状態になります。キーボードを弾くと選択したプリセットの音が出ます。パネル上のPart 1ボタンが点灯し、視覚的にもシングル・プリセットだということが確認できます。

センター・ノブを回して、これからマルチにしたいシングル・プリセットを探すこともできます。この時、Filterボタン [p.26]で絞り込みサーチもできます。Multiボタンはまだ押さないでください（Multiボタンはフロントパネル右側にあります）。

3.5.2. Part 2を追加する

色々なプリセットの選び方 [p.26]に慣れてきて、2つのプリセットを組み合わせてマルチにしたいと思ったら、Part 2ボタンを押します。Analog Lab 3がMultiモードのスワップ・モードに切り替わり、Analog Lab 3の画面上でPart 2スロットがオープンします。

この状態でPart 2に割り当てるプリセットをKeyLab mkIIのフロントパネルで選ぶことができます。最初のパートを選んだ時と同様、Filterボタンやカテゴリー・セレクトなどで絞り込みサーチもできます。



Multiモードやスワップ・モードの詳細につきましては、Analog Lab 3のユーザー・マニュアルをご参照ください。

3.5.3. スプリット・ポイントを設定する

Part 2を追加すると最初は2つのプリセットが重なったレイヤーになります。キーボードを2つの領域に分割して別々のプリセットを演奏したい場合は、スプリットにする必要があります。スプリットはKeyLab mkIIでもAnalog Lab 3でも設定できます。

キーボードでスプリット・ポイントを設定するには、Liveボタンを押しながら分割したい位置のキーを押します。この時ディスプレイは押したキーの音名を表示してスプリット・モードに入ります。Part 1はスプリット・ポイントの左側（低音側）になり、Part 2は右側（高音側）になります。Liveボタンを話すとディスプレイの表示が元のページに戻ります。

上記の操作は次の場合にも使用できます：

- すでにスプリット・モードになっているマルチのスプリット・ポイントを変更する場合
- レイヤーになっているマルチをスプリットにする場合

3.5.4. スプリット・モードを解除する

Liveボタンを押しながらスプリット・ポイントのキーを押します。ディスプレイに「Off」と表示され、スプリット・モードが解除されます。スプリット・ポイントでないキーを押してしまった場合は、もう一度同じキーを押してLiveボタンを放せば元の画面表示に戻ります。

i ♪ スプリット・ポイントの追加/削除はレイヤーのマルチを構築する場合にも便利です。一旦スプリット・モードにしてそれぞれのパートを単独で演奏できる状態にし、どちらのパートがレイヤーにとって重要かを確認でき、レイヤーに戻して2つのパートのバランスや弾きやすさを改めてチェックできます。

4. DAWモード

センター・セクションのDAWモード・ボタンを押すとDAWモードに入ります。このモードには8種類のDAWモード・プリセットがあり、その中の6種類は主要なDAWに対応したプリセットです。残りの2種類はスタンダードMCUとスタンダードHUIプリセットですので、この8種類のプリセットでほとんどのDAWに対応できます。

4.1. DAWモードのオーバービュー

KeyLab mkIIがDAWモードに入っている場合、モードを切り替えることで他のメイン・モード（Analog LabとUserモード）も使用できます。但し、他のモードに入っている場合、一部のDAWモードの機能が使用できない場合がありますのでご注意ください。

例えば、Track Selectボタンの機能はモードによって変わります。Analog Labモードに入ってトラック上にAnalog Lab 3の画面を開くと、Track SelectボタンはAnalog Lab 3のFilterボタンとして機能します。

ところが、Analog Labモードで使用しないDAWに特化したコントロールは使用できます。例えば、DAWコマンド・ボタンは選択したDAWプリセットのトラックやグローバル機能のコントロールに使用できます。

一方ユーザー・モードに入った場合、DAWコマンド・ボタンはユーザー・プリセットの機能に割り当てられています。この場合コマンド・ボタンを押すとDAWモードでの機能名がディスプレイに表示されますが、実際にはユーザー・モードで割り当てた機能が送信されます。

ユーザー・モードに入るとパネル上の多くのコントローラーはユーザー・モードのコントロールとして機能しますが、トランスポート・セクションは引き続きDAWのトランスポート・コントロールとして機能します。その場合でも、ユーザー・プリセットの選択は[こちら \[p.42\]](#)の方法で行えます。



♪ トランスポート・ボタンはどのメイン・モード（Analog Lab、DAW、ユーザー）でもトランスポート・コントロールとして機能します。

4.2. DAWプリセットの選択

DAWモード・ボタンを約1秒長押しするとDAWプリセット選択ページに入ります。次にセンター・ノブを回して必要なDAWプリセットを探します。センター・ノブをクリックするとDAWプリセットが選択され、そのDAWのほとんどの主要な機能のコントロールがKeyLab mkIIで行えます。



♪ お使いのDAWがプリセットに入っていない場合、そのDAWがMCUとHUIプロトコルに対応しているかどうかでKeyLab mkIIとの互換性が変わります。詳しくは[ArturiaウェブサイトのKeyLab mkIIページ](#)またはお使いのDAWの取扱説明書をご参照ください。

4.2.1. DAWプリセット・リスト

プリセット	DAW
1	スタンダードMCU
2	スタンダードHUI
3	Ableton Live
4	Logic Pro X
5	Pro Tools
6	Cubase
7	Studio One
8	Reaper

4.3.トラック/グローバル・コントロール

業界標準のMackie HUIプロトコルを使用し、DAWでよく使われるコマンドのほとんどをKeyLab mkIIでコントロールできます。また、トラック・コントロールとグローバル・コントロールの違いは次の通りです：

- **トラック・コントロール**ボタンは選択したトラックのみのコントロールをします。
- **グローバル・コントロール**ボタンはソングまたはプロジェクト全体にかかる機能をコントロールします。どのトラックを選択しているかに関係なく機能します。

以下の2つのセクションではKeyLab mkIIのフロントパネルにプリントされている機能についてご紹介します。各DAWプリセットに特化した機能につきましては[こちら \[p.39\]](#)をご参照ください。

4.3.1. トラック・コントロール



KeyLab mkIIのトラック・コントロール・ボタン お使いのDAWに合わせた付属のオーバーレイをご使用ください

- **Solo**: 選択したトラックのみの状態になります。
- **Mute**: 選択したトラックが無音になります。
- **Record**: 選択したトラックを録音モードにします。
- **Read**: 選択したトラックのオートメーション・データを使用可能な状態にします。
- **Write**: 選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にします。

4.3.2. グローバル・コントロール



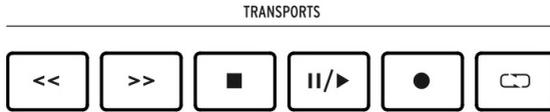
KeyLab mkIIのグローバル・コントロール・ボタン お使いのDAWに合わせた付属のオーバーレイをご使用ください

- **Save**: トラックを保存します。
- **In**: バンチン録音のスタート位置を設定します。
- **Out**: バンチン録音の終了位置を設定します。
- **Metro**: DAWのメトロノームのオン/オフを切り替えます。
- **Undo**: 直前の操作を取消します。トラックの削除やMIDIメッセージの取り込みなど。

i DAWコマンド・セクションのボタンは特定のコントロール・メッセージのみをDAWに送信し、メッセージの再割当てはできませんが、[ユーザー・エディット・モード \[p.42\]](#)を使用することでこれらのボタンに様々なMIDIメッセージを割り当てられます。

各DAWプリセットでのトラック/グローバル・コントロールの機能割り当てにつきましては、[こちら \[p.39\]](#)をご参照ください。

4.4. トランスポート・コントロール



トランスポート・セクションでは次のようなトランスポート・コントロールが行えます：

- **早戻し/早送り**： DAWの実際の反応はDAWによって変わります。プレイバック・カーソルが前方や後方に加速して移動するDAWもあれば、1小節ずつジャンプするもの、前後のマーカーにジャンプするものもありますが、基本コンセプトとして早戻し/早送りボタンはプレイバック・カーソルを前方または後方に素早く移動させてトラック上の任意のポイントを見つけるなどの目的で使用します。
- **停止**： 再生を止めます。DAWによってはプレイバック・カーソルをトラックの先頭に移動させるものもあります。
- **再生/一時停止**： プレイバック・カーソルの位置から再生を開始したり、その位置で一時停止します。
- **録音**： 録音をスタートします。トラックの停止中に録音ボタンを押した時点で録音がスタートします。再生中に録音ボタンを押した場合は、その時のプレイバック・カーソルの位置から録音します。
- **ループ**： DAWのループ機能のオン/オフを切り替えます。ループ区間の長さはDAWで設定します。

 トランスポート・ボタンはKeyLab mkIIがどのメイン・モードに入っている場合でもMCU / HUIプロトコルを送信し、別の機能を送信するように設定することはできません。

4.5. センター・ノブ：ジョグ・ホイールとしての使用

DAWモードに入っている場合、センター・ノブをジョグ・ホイールとして使用でき、プレイバック・カーソルを前後に移動できて作業効率が上がります。

4.6. チャンネル/バンク選択



エンコーダーやフェーダーなどの左側にはコントロール・ボタンがあります。DAWモードではボタンの下にある黒字の機能が使用できます：

- **Next / Prev:** エンコーダーやフェーダー、ボタンでコントロールするチャンネルを8チャンネル単位または1チャンネル単位で切り替えます。
 - Bankボタンがオン（点灯）：Next / Prevボタンを押すと8チャンネル単位で切り替わります。
 - Bankボタンがオフ（消灯）：Next / Prevボタンを押すと1チャンネル単位で切り替わります。
- **Bank:** Next/Prevボタンの動作モードを切り替えます。

4.7. トラックの選択



DAWモードではボタンの下にある黒字の機能が使用できます：

- Select 1ボタンを押すと、トラック・コントロール・ボタンで選択したトラック・グループの最初のトラックを選択します。
- Select 2ボタンを押すと、トラック・コントロール・ボタンで選択したトラック・グループの2番目のトラックを選択します。
- Select 3ボタンを押すと、トラック・コントロール・ボタンで選択したトラック・グループの3番目のトラックを選択します。

以下Select 8ボタンまで同様です。トラックの選択後、トラック・コントロール・ボタンでそのトラックのソロ、ミュート、録音状態のオン/オフ、オートメーションの読み出し/記録などをコントロールでき、その状態をディスプレイに表示します。

i : DAWモードではボタン9はAbleton Liveでのみ使用します。Ableton Liveと使用する場合は、ボタン9でKeyLab mkIIのフェーダーの機能を切り替えることができます。デフォルト設定ではフェーダーはトラックのボリュームを操作し、ボタン9を押すとフェーダーでAbleton LiveのSEND Aノブをコントロールできます。

4.8. エンコーダーとフェーダー

DAWモードではエンコーダーとフェーダーでミキシングに欠かせない機能をコントロールできます。

4.8.1. DAWモードでのエンコーダー



DAWモードではエンコーダーの下にある黒字の機能が使用できます：

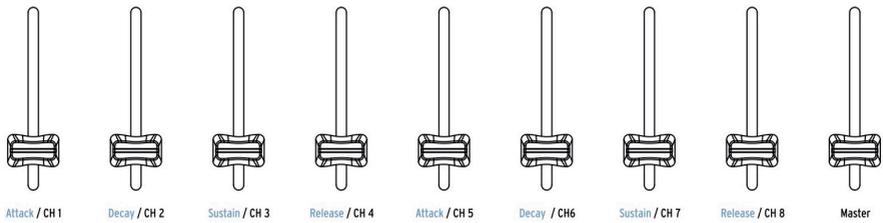
- エンコーダー1：選択したトラック・グループの先頭トラックのパンニングをコントロールします。
- エンコーダー2：選択したトラック・グループの2番目のトラックのパンニングをコントロールします。
- エンコーダー3：選択したトラック・グループの3番目のトラックのパンニングをコントロールします。

以下エンコーダー8まで同様です。



♪ エンコーダー9はDAWモードでは使用しません。

4.8.2. DAWモードでのフェーダー



DAWモードではフェーダーの下にある黒字の機能が使用できます：

- フェーダー1：選択したトラック・グループの先頭トラックのレベルをコントロールします。
- フェーダー2：選択したトラック・グループの2番目のトラックのレベルをコントロールします。
- フェーダー3：選択したトラック・グループの3番目のトラックのレベルをコントロールします。

以下フェーダー8まで同様です。

フェーダー9はソングやプロジェクトのマスター・フェーダーとして機能し、楽曲全体のボリュームをコントロールします。

♪ DAWモードではフェーダーを操作した時のDAWの反応のさせ方を[ジャンプ](#)または[ピックアップ](#) [p.77]の2種類から選択できます。この選択は[KeyLab mkIIのフロントパネル](#) [p.21]または[MIDI Control Center](#) [p.61]で行えます。

4.9. DAWプリセット・コマンド・チャート

4.9.1. スタンダードMCU

セクション	ボタン	内容
Track Controls	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックのすべてのオートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	In / Out	パンチイン録音の範囲指定
	Metro	DAWのメトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.2. スタンダードHUI

セクション	ボタン	内容
Track Controls	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックのすべてのオートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	In / Out	パンチイン録音の範囲指定
	Metro	DAWのメトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.3. Ableton Live

セクション	ボタン	内容
Track Controls	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
Automation	Arm	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
	Re-Enable	上書きされたオートメーション・パラメーターを再びオンにする
Global Controls	View	セッション・ビューとアレンジ・ビューの切り替え
	Punch In / Out	パンチイン録音の範囲指定
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.4. Logic Pro X

セクション	ボタン	内容
Track Controls	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Replace	録音モード（リプレースまたはオーバーダブ）の切り替え
	Auto-Punch	設定した範囲でのパンチイン録音をオンにする
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.5. Pro Tools

セクション	ボタン	内容
Track Controls	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Punch	設定した範囲でのパンチイン録音をオンにする
	Mix	ミックス・ウィンドウを表示する
	Proj	プロジェクト選択メニューを開く
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.6. Cubase

セクション	ボタン	内容
Track Controls	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Punch In / Out	パンチイン録音の範囲指定
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.7. Studio One

セクション	ボタン	内容
Track Controls	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Auto-Punch	設定した範囲でのパンチン録音をオンにする
	Mixer	ミックス・ウィンドウを表示する
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.8. Reaper

セクション	ボタン	内容
Track Controls	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Zoom Out / In	トラック・ウィンドウのズーム・イン/アウト
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

5. ユーザー・モード

5.1. 全体コンセプト

Userモード・ボタンを押すとKeyLab mkIIはユーザー・モードに入ります。10種類のユーザー・プリセットが使用でき、各プリセットでは本機のフロントパネルとリアパネルのほぼすべてのコントローラーやジャックにそれぞれ個別のMIDIコントロール・メッセージを割り当てることができます。3バンク分のエンコーダーやフェーダーと同様、各プリセットにも分かりやすいように名前を付けることができます。

ユーザー・モードのトップ・レベル（プレイ・モード）で各種コントローラーを操作すると、どのコントローラーを操作していて、送信しているMIDIメッセージの種類とそのMIDIチャンネル、送信しているメッセージの値がディスプレイに表示されます。

ユーザー・モードの全パラメーターはユーザー・エディット・モード [p.44]に入ってエディットできるほか、MIDI Control Center [p.61]を使用してエディットすることもできます。また、エディットしたいパラメーターに素早くアクセスできるキーボードショートカット [p.48]もあります。

5.2. ユーザー・プリセットの選択

ユーザー・モードに入ると、センター・ノブで10種類のプリセットをスクロールできます。使用したいプリセットが見つかりましたら、センター・ノブをクリックすると選択できます。この時、選択したプリセットのセッティングに瞬時に切り替わります。

5.3. プレイ・モードでのディスプレイ

ユーザー・モードのトップ・レベルをプレイ・モードと呼んでいます。このモードでは、オクターブ・シフトやどのコードを演奏したか、どのコントローラーを操作しているかなど、本機での操作内容がディスプレイに表示されます。

コントローラーを操作すると、2種類のデータが表示されます：

Exp	Val: 127
CH: User	CC: 11

プレイ・モード：エクスプレッション・ペダルの操作時

エクスプレッション・ペダルやモジュレーション・ホイールを操作した場合、その名前とその時の値が上段に、割り当てられているMIDIメッセージの種類が下段に表示されます。

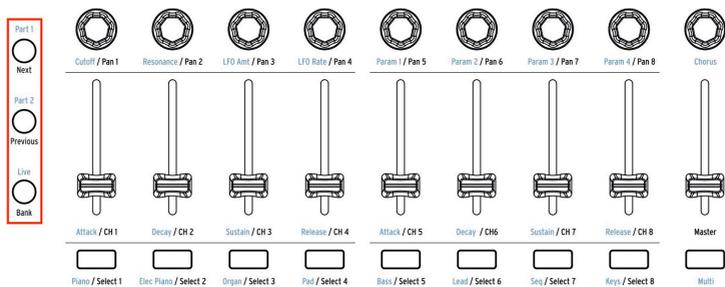
フェーダーやエンコーダー、Selectボタンの場合は表示フィールドが増えます。

Encoder 1B1	10
CH: User	CC: 74

ユーザー・エディット・モード：エンコーダー1、バンク1が選択されている状態

これらのコントローラーを操作した場合、コントローラーの名称とバンク番号、送信しているメッセージの値が上段に、MIDIチャンネルとメッセージの種類が下段に表示されます。

5.4. コントローラー・バンクの選択



上図の左側にあるコントロール・ボタンは、エンコーダー、フェーダー、ボタンのバンク選択に使用します。選択したバンクに対応するコントロール・ボタンが点灯します。

5.5. ユーザー・エディット・モード

Userモード・ボタンを約1秒長押しするとユーザー・エディット・モードに入ります。次に以下の項目からエディットしたいコントローラーを選択します：

- フェーダー、エンコーダー、またはSelectボタン
- DAWコマンド・ボタン/Userボタン
- パッド
- ペダル
- ホイール
- キーボードのキー
- CVインに入力したCV

上記の中からエディットしたい項目を選択してからセンター・ノブを回すと、ディスプレイの下段にエディットできるパラメーターが表示されます。

エディットしたいパラメーターが見つかりましたら、センター・ノブをクリックしてからセンター・ノブを回すとそのパラメーターの値が変化します。センター・ノブをもう一度クリックするとパラメーター選択画面に戻ります。

5.5.1. エディットしたいコントローラーの選択

エディットしたいコントローラーを切り替える方法には、次の2種類があります：

- エディットしたいコントローラーを操作する。または、
- 左右の矢印ボタンを押してコントローラーを選びます。

5.5.1.1. CVコントロールの選択

エディット項目の中には上記の選択操作を組み合わせる必要があるものもあります。例えば、以下の項目は次の操作で選びます：

- **CV Mod Input:** Selectボタン9を押してから右矢印ボタンを1回押します。
- **CV Pitch/Gate/Mod Outputs:** Aux 3ペダルを選択してから右矢印ボタンを1回押します。

上記のような操作をしても、別にエディットしたいコントローラーを操作すればそのコントローラーのエディットに切り替わり、センター・ノブを回してエディットしたいパラメーターを選択でき、センター・ノブをクリックしてそのパラメーターのエディットができます。



♪ キーボードの最高部1オクターブのキーはユーザー・エディット・モードのパラメーター・グループやその他の機能へのショートカット [p.48]になっています。

ユーザー・エディット・モードのすべてのパラメーターはMIDI Control Center [p.61]でエディットすることもできます。



♪ エディットをしたら、こまめに保存 [p.52]しましょう。

5.5.2. ユーザー・エディット・モードでのディスプレイ

コントローラーの中にはすべてのエディット・パラメーターを一度に表示しきれないものもあります。以下の2種類のコントローラーの例では、赤枠内の表示がそれぞれ変化します。コントローラー名が上段に表示され、センター・ノブを回すとパラメーターとその設定値が下段に表示されます。

上段に表示されるコントローラー名は次の操作をすると切り替わります：

- 選択したいコントローラーを操作する。または、
- 左右の矢印ボタンを押して選択します。

5.5.2.1. ユーザー・エディットの例1：サステイン・ペダル



ユーザー・エディット・モード：サステイン・ペダルを選択した状態

サステイン・ペダルは1つだけですので（モジュレーション・ホイールやエクスプレッション・ペダルなども同様です）ディスプレイの上段にはコントローラー名のみが表示されます。

下段にはモードやMIDIチャンネル、オプションなどのパラメーターの中から選択したものが表示されます。この時、次のような操作でエディットします：

- センター・ノブを回してエディットしたいパラメーターを探します（下段左の赤枠内の表示が変わります）。
- センター・ノブをクリックしてパラメーターを選ぶと、その設定値が表示されます（下段右の赤枠）。
- センター・ノブを回して設定値を変更します。
- センター・ノブをクリックして変更を確定して、次にエディットしたいパラメーターを選びます。

5.5.2.2. ユーザー・エディットの例2：フェーダー



ユーザー・エディット・モード：フェーダー8を
選択した状態

フェーダーやエンコーダー、Selectボタンのように1バンクに9個のコントローラーがあるものは、上段左の赤枠にコントローラー名、バンク番号がその右に表示されます。バンクは3つありますので実質27個のフェーダーなどがあるということになります。

コントローラーの選択方法は次の通りです：

- 選択したいコントローラーを操作します（上段左の赤枠内の表示が変わります）。
- Controlボタン（Part 1、Part 2、Live）を押してバンクを選択します（上段右の赤枠）。

ディスプレイ下段にはモードやMIDIチャンネル、オプションなどのパラメーターが表示され、次のような操作ができます：

- センター・ノブを回してエディットしたいパラメーターを探します（下段左の赤枠内の表示が変わります）。
- センター・ノブをクリックしてパラメーターを選ぶと、その設定値が表示されます（下段右の赤枠）。
- センター・ノブを回して設定値を変更します。
- センター・ノブをクリックして変更を確定して、次にエディットしたいパラメーターを選びます。

 ① バンク1～3はControlボタン（Part 1、Part 2、Live）を押して切り替えます。センター・ノブでは切り替わりませんのでご注意ください。

5.5.3. キーボード

KeyLab mkIIのキーボードにはいくつかの設定パラメーターがあります。常にMIDIノート・データを送信するのはもちろんですが、その他にも次のようなオプションがあります：

- スプリット・モードのオン/オフとスプリット・ポイント
- Part 1とPart 2（スプリット時）のそれぞれのMIDIチャンネル
- キーボードのベロシティ・カーブ（3種類の中から1つを選択）
- Part 1とPart 2のチャンネル・プレッシャー（アフタータッチ）のオン/オフ
- Part 1とPart 2のオクターブ・シフトとトランスポーズ設定
- Part 1またはPart 2でのコード・モードのオン/オフ

5.5.3.1. ユーザー・モード：Part 1 vs. Part 2

スプリット・モードがオフの場合、Part 1のMIDIチャンネルで各種MIDIメッセージが送信されます。オンの場合はPart 1とPart 2で別々のMIDIチャンネルを設定できます。言い換えれば、Part 2はスプリット・モードがオンの場合にのみ使用できるということになります。

 ユーザー・エディット・モードに入っている状態でキーボードの最高部1オクターブから下のキーを押すと、キーボードの各種設定をエディットできます。また、最高部1オクターブの各キーはキーボード関連の各種パラメーターへのショートカットになっています（以下参照）。

5.5.3.2. キーボード・スプリット：ユーザー・モード

スプリット・ポイントを設定するにはユーザー・エディット・モードに入る必要があります。同モードに入った後の操作手順は次の通りです：

- キーボードの最高部1オクターブよりも下のキー（どれでもOKです）を押します。
- センター・ノブを回してSplitModeパラメーター・ページを選択します。
- センター・ノブをクリックしてパラメーターの値を変更できる状態にします。
- センター・ノブを回して値をOnにします。
- センター・ノブをクリックしてパラメーター選択に戻ります。
- センター・ノブを回してSplitPointパラメーター・ページを選択します。
- センター・ノブをクリックしてパラメーターの値を変更できる状態にします。
- センター・ノブを回して値（スプリット・ポイント）を変更します。
- センター・ノブをクリックしてパラメーター選択に戻るか、他のエディットしたいコントロールを選択します。
- 設定を変更しましたらこまめに保存しましょう。

 ユーザー・モードではPart 1はスプリット・ポイントの右側（高音側）になり、Part 2は左側（低音側）になります。これはAnalog Labモードの**スプリット・モードのパート割り当て** [p.30]とは逆になりますのでご注意ください。

5.5.3.3. キーボード・ショートカット・チャート

以下はキーボード・ショートカットの表です：

モード	名称	ボタン/キー操作	機能 [2]
すべて [1]	MIDI Ch	MIDI Ch + 最低音から16個のキーのうち1つ	ユーザーMIDIチャンネルの設定
User Edit [3]	Global [p.21]	最高部1オクターブのDのキー	キーボード/パッド/フェーダーのレスポンス等の設定
	Store	最高部1オクターブのEのキー [2]	ユーザー・プリセットの保存ページに入る
	Velo Curve	最高部1オクターブのFのキー [2]	キーボードのベロシティ・カーブ設定
	Name	最高部1オクターブのF#のキー [2]	エンコーダーとフェーダーのリネーム・ページに入る
	Mode	最高部1オクターブのGのキー [2]	コントロール機能の選択またはオフ
	Option	最高部1オクターブのG#のキー [2]	コントロール機能のレスポンス選択（ゲート/トリグル等）
	MIDI Ch	最高部1オクターブのAのキー [2]	選択したコントローラーのMIDIチャンネル設定
	CC	最高部1オクターブのBbのキー [2]	MIDI CC#またはノート・ナンバーの選択
	Min LSB	最高部1オクターブのBのキー [2]	選択したコントローラーの最低値設定
	Max MSB	最高部1オクターブのCのキー [2]	選択したコントローラーの最高値設定

[1] Analog Lab、DAW、ユーザー・モード [2] コントローラーの機能の違いにより選択できないショートカットもあります。 [3] これらのパラメーターにアクセスするには、最初にUserモード・ボタンを約1秒長押ししてユーザー・エディット・モードに入ります。

5.5.4. ホイール

キーボードの左側には2種類のホイールがあり、それぞれ別の機能があります。

5.5.4.1. ピッチ・ホイール

ピッチ・ホイールはMIDIピッチ・ベンド・メッセージを送信します。別のMIDIメッセージに再割当てすることはできませんが、ピッチ・ベンドがかかるパート（Part 1またはPart 2または両方）を選択できます。

5.5.4.2. モジュレーション・ホイール

モジュレーション・ホイールは通常、MIDI CC#1を送信しますが、MIDI Control Center [p.61]を使用して別のCCナンバーに再割当てすることができます。どのCCナンバーに割り当てた場合でもPart 1、Part 2または両方からMIDIメッセージを送信できます。

5.5.5. パッド



♪: パッドの隣にあるコード機能のボタン (Chord Memory、Chord Transpose) のいずれがオンの場合、パッドからはそのパッドにメモリーされているコードのMIDIノート・データのみが送信されます。

各パッドは次のMIDIメッセージを任意のMIDIチャンネルまたはユーザー・チャンネルで送信することができます：

- 任意のMIDIノート・ナンバー (ベロシティとポリフォニック・アフタータッチ付き)
- 任意のMIDI CCの2つの値を切り替えて送信 (トグルまたはゲート動作)
- MIDIプログラム・チェンジ/バンク・セレクト・メッセージ

パッドで別のユーザー・プリセットを切り替えることもできます。例えば、この動作を2つのパッドに割り当てると、ユーザー・プリセットを次のプリセット/前のプリセット (順方向/逆方向) というように切り替えることができます。



♪: MIDI Control Center [p.61]を使用して、パッドごとの点灯色を設定することができます。例えば、ノート・データはブルー、プログラム・チェンジはグリーン、というように機能別に色分けし、暗いステージなどでも各パッドの機能を瞬時に見分けることもできます。

5.5.6. DAWコマンド/ユーザー・ボタン

ユーザー・モードでは、DAWコマンド・ボタンを特定のMIDIメッセージを送信するスイッチとして使用でき、次のようなメッセージを送信できます：

- 任意のMIDI CCの2つの値 (トグルまたはゲート動作)
- MIDIプログラム・チェンジ/バンク・セレクト・メッセージ

MIDIメッセージの割り当てはボタンごとに設定でき、他のコントローラーと同様、フロントパネルでの操作またはMIDI Control Center [p.61]で設定できます。

5.5.7. 3バンク分のコントローラー

エンコーダー、フェーダー、ボタンはそれぞれ9個ずつあり、合計27個のコントローラーができます。さらに、このセットを3バンク分設定できますので、実質81個ものコントローラーがあることになります。バンクはこのセクションの左側にある3つのボタンで切り替えます。

そのため、このセクションのコントローラーに機能を割り当てる時には、他のコントローラーよりも多くのフィールドが[ディスプレイ \[p.42\]](#)に表示されます（これはこのセクションの機能割り当てが3バンク分あるためです）。

割り当て可能な機能の中にはSelectボタンの点灯色などのように、[MIDI Control Center \[p.61\]](#)でのみ設定可能なものもあります。

5.5.7.1. エンコーダー

エンコーダーは次のようなMIDIメッセージを任意のMIDIチャンネルまたはユーザー・チャンネルで送信できます：

- MIDI CCメッセージ（値のレンジ設定可能）
- RPN/NRPNメッセージ（値のレンジ設定可能）

他にも次のような重要な機能があります：

- メッセージ送信の絶対/相対モードの選択
- エンコーダーごとのリネーム機能
- エンコーダーを何周回すと最低値/最高値に到達するかの加速度を個別に設定できます。これは[MIDI Control Center \[p.61\]](#)で設定できます。

5.5.7.2. フェーダー

フェーダーは次のようなMIDIメッセージを任意のMIDIチャンネルまたはユーザー・チャンネルで送信できます：

- MIDI CCメッセージ（値のレンジ設定可能）
- RPN/NRPNメッセージ（値のレンジ設定可能）

他にも次のような重要な機能があります：

- ノーマルまたはドローパー・モード（値が変化する方向の正逆反転）
- フェーダーごとのリネーム機能
- フェーダーを動かした時の値の挙動設定（動かした時点でその位置の値に瞬時に変化するジャンプ・モード、または設定値の位置に達するまでフェーダーを動かしても値が変化しないピックアップ・モード）の選択。これは[KeyLab mkIIのフロントパネル操作 \[p.21\]](#)または[MIDI Control Center \[p.61\]](#)で選択できます。

5.5.7.3. ボタン

Selectボタンは次のようなMIDIメッセージを任意のMIDIチャンネルまたはユーザー・チャンネルで送信できます：

- MIDI CCの2つの値
- RPN/NRPNメッセージ
- MIDIプログラム・チェンジ/バンク・セレクト・メッセージ

MIDI Control Center [p.61]を使用して、ボタンごとの点灯色を設定できます。例えばMIDI CCメッセージにはブルー、プログラム・チェンジにはグリーンというように、機能別に点灯色を振り分けることでステージ上などでも瞬時に見分けることができます。

5.5.8. ペダル/CV端子

5.5.8.1. CVイン

 ユーザー・エディット・モードでCVコントロールを素早く選択する方法は、[CVコントロールの選択 \[p.44\]](#)をご参照ください。

このリアパネルの端子を使用して、入力したCVをMIDIメッセージに変換してDAWで利用することができます。CVの電圧レンジは出力するMIDIメッセージのレンジと合うように設定できます。詳しくは[CV/Gateチャプター \[p.58\]](#)をご参照ください。

5.5.8.2. ペダル

5つのペダル端子はいずれもフットスイッチまたはエクスプレッション・ペダルが使用でき、次のようなコントロールができます：

- スイッチ動作のコントロール：MIDI CCの2つの値（トグルまたはゲート動作）
- プログラム・チェンジ：MIDIプログラム・チェンジ/バンク・セレクト・メッセージ
- コントロール：MIDI CC（値のレンジ設定可能）

5.5.8.3. CVアウト

4つのCVアウトにはそれぞれ固有の機能があります。詳細は[CV/Gateチャプター \[p.58\]](#)でご紹介しますので、ここでは概略のみご紹介します：

- Pitchアウト：MIDIノート・ナンバーをCVに変換
- Gateアウト：MIDIノート・オン/オフ・メッセージをゲート信号に変換
- Mod 1：デフォルト設定ではMIDIベロシティ・メッセージをCVに変換しますが、別のソースを選択することもできます。
- Mod 2：デフォルト設定ではモジュレーション・ホイールの値をCVに変換しますが、別のソースを選択することもできます。

5.6. 機能固定のコントローラー

フロントパネルのほとんどのボタン/パッド/フェーダー/エンコーダーは様々なタイプのMIDIメッセージを割り当てられますが、中には**機能固定**のコントローラーもあります。以下はそのリストです：

- Chord / Transpose / Octave - / Octave + の各ボタン
- Pad / Chordモード・ボタン
- 3つのControlボタン
- Transportボタン
- Category / Preset / 左矢印 / 右矢印 の各ボタン
- センター・ノブ
- Part 1 / Part 2 / Live（この3つはコントローラーのバンク選択に使用します）
- MIDI Chボタン：キーボードと併用してユーザー・チャンネル選択にのみ使用します



♪ トランスポート・ボタンは常にMCU/HUIプロトコルによるコマンドを送信し、どのモードに入っている場合でも機能は変わりません。

5.7. プリセットの保存



! 以下の操作例は10種類のユーザー・プリセットのうち1つを上書きするものです。プリセットを書き換えたくない場合は、事前にMIDI Control Centerを使用してデータのバックアップを取ってください。

こまめな保存はデータ損失を防ぐ最良の方法です。ここでは、コントローラーの機能割り当てをした後でユーザー・プリセットを保存する方法をご紹介します。すでにユーザー・エディット・モードに入っている場合はキーボード・ショートカットが使えますので、キーボードの最も高いEを押してユーザー・プリセットの保存ページに入り、次の操作をします。

1. 保存ページの最初の画面は、これから保存するプリセットを選ぶ画面になっています。
2. センター・ノブを回して保存するプリセット番号を選びます。
3. センター・ノブをクリックするとこれから保存するプリセットをリネームできます。センター・ノブを回して文字を選び、左右の矢印ボタンで前後の文字に移動します。
4. リネームが完了したらセンター・ノブをクリックして保存を実行します。
5. 画面表示がユーザー・モードのトップに移り、保存したプリセットが選択された状態になります。



♪ ユーザー・エディット・モードで保存ページに入る方法がもう1つあります：Userボタンを押すとエディットした内容を保存しても良いかどうかを聞くメッセージが表示されず、保存する場合はセンター・ノブをクリックして、上記の操作を行います。

6. コード・モード

KeyLab mkIIはワンフィンガーでキーボードやパッドを使ってコード演奏ができるコード・モードを内蔵しています。

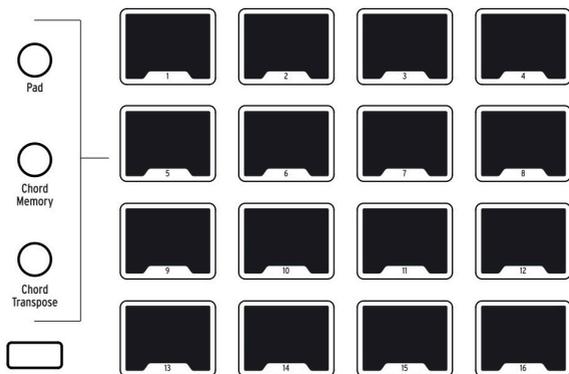
6.1. コード・モードのオーバービュー

キーボードで演奏するコードのセットや呼び出しは、[Chordボタン \[p.55\]](#)を使用します。



Chord

Chordボタンでセットしたコードは、KeyLab mkIIの電源を切ると失われてしまいますが、[パッド \[p.56\]](#)には2つのコード・モード（[コード・メモリー \[p.56\]](#)と[コード・トランスポーズ \[p.56\]](#)）の合計で32種類のコードを保存しておくことができます。



パッドの左側にある3つのボタンでパッドのモード切り替えができます。下2つのボタンはパッドでコードを演奏するコード・メモリーとキーボードで演奏するコード・トランスポーズの各モードでコードのセットや呼び出しを行います。

6.1.1. コード演奏の3つの方法

以下は各パッド・モードでのChordボタンとキーボード、パッドの関係をまとめたものです：

- **パッド・モード：**
 - Chordボタンで1種類のコードをセットでき、キーボードでコードを平行移動することができます。
 - パッドからはMIDIノート、MIDI CC、プログラム・チェンジなどの送信ができます。
 - Chordボタンをオフにすればキーボードで通常の演奏ができます。
 - Chordボタンでセットしたコードは、本機の電源をオフにすると消去されず。
- **コード・メモリー・モード：**
 - Chordボタンで1種類のコードをセットでき、キーボードでコードを平行移動することができます。
 - パッドには最大16種類のコードをメモリーでき、パッドを押すことでコードを発音させることができます。
 - Chordボタンをオフにすればキーボードで通常の演奏ができます。
- **コード・トランスポーズ・モード：**
 - Chordボタンをオンしておく必要があります。
 - パッドに最大16種類のコードをメモリーできます。
 - パッドを押してコードの種類を選び、キーボードでそのコードを平行移動することができます。

コード・メモリーとコード・トランスポーズの両モードでセットしたコードは、ユーザー・プリセットに保存できます。また、Analog LabとDAWの各モードでもそれぞれ最大32種類のコードをセットできますので、3モード合計で96種類ものコードが使用できます。

ただし、Chordボタンのオン/オフとChordボタンでセットしたコードはユーザー・プリセットには保存されません。そのため、ユーザー・プリセットを切り替えてもChordボタンのオン/オフは変わりません。

6.1.2. 動作の仕組み

コードをセットした時の最低音はそのコードのルートになります。例えば、G2、C3、E3の音をセットした場合、そのコードは聴感上Cメジャーの第2転回形ですが、コード・モードでキーボードのC3を弾くと、C3、F3、A3が発音します。これは本機が最初にセットしたコードをそのまま5半音（4度）上に平行移動させているからです。元のCメジャーを発音させたい場合は、G2を弾く必要があります。

別の例として、コード・モードでルートを最低音にした5度を使いたいとします。この場合、次のように操作することで思い通りの演奏になります：

- Chordボタンを押しながら...
- キーボードでCとその上のGを弾きます。
- Chordボタンを放してコードのセットを終えます。
- キーボードでCを弾くとCとその上のGが発音します。
- キーボードでEを弾くとEとその上のBが発音します。

6.2. コード・モード：キーボード

キーボード用のコード・モードはChordボタンでオン/オフを切り替えます。



♪ キーボードが**スプリット・モード** [p.47]に入っていない場合、Chordボタンがオンの時はキーボードは1音のみ（モノフォニック）の演奏になります。しかし、パッドでコード・メモリー・モードを選択し、Chordボタンがオフの場合は、複数のパッドやキーボードを同時に演奏してもそのままポリフォニックで発音できます。

6.2.1. Chordボタンでコードをセットする

Chordボタンを押しながら（この時ボタンが点滅します）6ボイスまでのコードをキーボードでセットします。Chordボタンを放すとセットが完了し、キーボードで弾くとセットしたコードを弾いたキーに応じて発音します。セットしたコードの構成音はディスプレイに表示され、キーボードで弾いたキーに応じてトランスポーズされます。



♪ セットしたコードのすべての構成音のノート・データはUSBとMIDIから送信されます。

この方法の場合、Chordボタンを放すまではコードのセットができますので、指が6本必要なコードや片手で押さえられないほど離れた音をセットしたい場合は、Chordボタンを押したままの状態ですぐキーボードを押して最後にChordボタンを放せばセットできます。セットできるコードは最大6ボイスまでです。



♪ Chordボタンでセットしたコードは、本機の電源をオフすると消去されますが、コード・メモリー・モードやコード・トランスポーズ・モードで**パッドには保存できます** [p.57]。

6.3. パッド：2つのコード・モード

パッドの場合、Chord MemoryとChord Transposeボタンでそれぞれのモードに入りますが、両者の機能は大きく異なります。どちらのモードも3つのメイン・モード（Analog Lab、DAW、ユーザー）で使用でき、最大32種類のコード（コード・メモリーとコード・トランスポーズで16種類ずつ）を使用できます。

各コード・モードにはプリセット・コードがあらかじめメモリーされていて、すぐに曲作りなどができますが、プリセット・コードの代わりにオリジナルのコードをセットしてメモリーさせておくことも可能です。

コードのセットと保存方法はどちらのコード・モードでも同じですので、次のセクションで両モードをまとめてご紹介します。ですが、使い方はそれぞれのモードで異なります。それぞれのモードの違いにつきましては、[コード演奏の3つの方法 \[p.53\]](#)をご参照ください。

6.3.1. パッド・コード・モード：色々な使い方

6.3.1.1. コード・メモリー・モード

コード・メモリーで最も典型的な使い方はパッドを押してコードを演奏することでしょう。両手でパッドを押し替えてコードを次々と演奏することもできますし、左手でパッドを押してコードをトリガーさせ、右手はキーボードでメロディを弾くといったこともできます。

コードは必ずしも3音以上必要ということはありません。分厚いプラス・セクションで見られるようなオクターブ重ねの2音をセットしてパッドで演奏するということもできます。

6.3.1.2. コード・トランスポーズ・モード

コード・トランスポーズ・モードは16種類までのコードをパッドにセットできる点はコード・メモリー・モードと同じです。しかし、このモードの場合、パッドはキーボードで弾くコードを呼び出すために使用します。また、このモードではChordボタンをオンにしておく必要があります。

以上をふまえて、コード・トランスポーズ・モードでできることをご紹介します：

- ・ シンプルなコードから複雑なコードまで、最大6音までのコードをセットできます。
- ・ キーボードで弾くリード・サウンドに対して、パッドを押し替えて色々なハーモニーを付けることができます。
- ・ ギターなどの色々なバレー（セーハ）コードを複数のパッドにセットして、ワンフィンガーで色々なパワーコードを演奏できます。

コード・トランスポーズ・モードではパッドでコードの種類を呼び出して、キーボードで単音を弾いて演奏します。ここがコード・メモリー・モードと大きく異なるポイントです。

6.3.2. パッド用コードのセット方法

以下の手順は3つのメイン・モード（Analog Lab、DAW、ユーザー）でも、コード・メモリーまたはコード・トランスポーズどちらのモードでも共通です：

1. コード・メモリーまたはコード・トランスポーズどちらかのモードに入ります（モードでパッドの点滅の仕方が変わります）。
2. Chordボタンを押したまま...
3. パッドを押して選びます：
 - コード・メモリー・モードの場合、選択したパッドがグリーンで点灯し、その他は点滅しません。
 - コード・トランスポーズ・モードの場合、選択したパッドがラベンダー色で点灯し、その他は消灯します。
 1. すでにセットされているコードをチェックします。
 2. キーボードでコードを押さえます（コードの構成音を全部同時にでも1音ずつでもOKです）。
 3. Chordボタンを放します。
 4. パッドが点滅してコードがセットされたことを表示します。
 5. 他のパッドにもコードをセットする場合は、上記のステップ2~7の操作を繰り返します。

ここまでは両モードとも操作は同じですが、コードの演奏方法は次のように異なります：

- コード・メモリー・モードでは、上記ステップ3でセットしたパッドを押すとコードが鳴ります。この場合、Chordボタンのオン/オフに関係なく、コードを発音します。
- コード・トランスポーズ・モードでは、上記ステップ3でセットしたパッドを押すとコードの種類のみが選択され、キーボードを弾いて初めてコードが鳴ります。このモードでは、Chordボタンをオン（点灯）しておく必要があります。



♪: どちらのモードでも、コードをセットした時の最低音よりも低い音で発音させた場合、ディスプレイには元のセット時の音名ではなく、トランスポーズされた音名が表示されます。

6.3.3. コード・トランスポーズ・モードの要点

コード・トランスポーズ・モードはコード・メモリー・モードと動作が異なります。以下は知っておくと便利なコード・トランスポーズ・モードのポイントです：

- コード・トランスポーズ・モードをオンにするには、Chordボタンをオンにする必要があります。
- 上記のステップ3で選択したパッドを押してキーボードの中央Cを弾くと、セットした時と同じコードがトランスポーズされずに発音します。
- 中央Dを弾くとセットしたコードが1音（2半音）高くトランスポーズして発音します。その他のキーを弾いた場合も、中央Cからのインターバルに応じてコードをトランスポーズして発音します。
- 別のパッドに別のコードをセットした場合、パッドを押し替えてキーボードの同じキーをその都度弾いてコードを切り替えて演奏できます。

例えばパッド1にC7のコードを、パッド2にCm7のコードをセットしたとします。キーボードの中央Cを弾いてパッドを押し替えると、2つのコードを弾き分けることができます。

7. CV / GATE / MODの接続

DAWやプラグイン・ソフトウェア、MIDI機器がコントロールできるだけでなく、KeyLab mkIIがモジュラー・シンセサイザーとのインターフェイスとしても使えればさらにクールなのでは？とArturiaのエンジニアは考えていました。

それでリアパネルに多くのCV端子を装備して、本機がほぼすべての音楽制作テクノロジーのインターフェイスとして使えるように設計しました。入力したCVをUSB/MIDIメッセージに変換してDAWに取り込み、Analog Lab 3のようなプラグイン・シンセサイザーのモジュレーション・ソースに利用することも可能です。

入力だけでなく、フロントパネルでの操作やペダル操作からCVを出力してモジュラー・シンセサイザーにCVインに接続することもできます。

7.1. CVインプット・コネクター

CVインプット端子に入力したCVをモジュレーション・ソースに利用できます。ユーザー・エディット・モードでは、入力したCVを任意のMIDI CC#に変換する設定ができ、指定のMIDIチャンネルで、設定した値の範囲で、まるでエクスプレッション・ペダルを操作しているかのように自然にMIDI CCとして出力することができます。

CVから変換した信号はMIDIコネクターやUSBポートから出力され、外部MIDI機器やプラグインなどのモジュレーション・ソースとして利用できます。

入力するCVのソースはArturia MatrixBruteやMiniBrute 2などのセミモジュラー・アナログ・シンセサイザーや、その他のシンセサイザーであることが一般的でしょう。ユーロラック・モジュラーも素晴らしいソースの1つで、複数のモジュールを使って複雑な動きのCVを本機に入力してDAW環境のモジュレーション・ソースにできます。

メーカーによってCVの電圧レンジが異なることがあります。そのためKeyLab mkIIとMIDI Control Center [p.61] (MCC) では入力する機器に応じて電圧レンジを設定することができます。設定可能レンジは1~10Vで、ほぼすべてのアナログ・シンセサイザーからのCVに対応できます。

7.1.1. パラメーター（ユーザー・エディット・モード）

端子名 / ユーザー・エディット・モードでの名称	パラメーター	レンジ
CV In / CV Mod In	MIDI Ch	1~16, User, Part 1, Part 2
	CC	0-127
	Max/MSB	0~127
	Min/LSB	0~127
	Volt range	1~10V

7.2. Pitch/Gate/Modを接続する

Pitch/Gate/ModアウトはKeyLab mkIIからのデータをCVに変換し、モジュラー・シンセサイザーなどの外部機器を発音させたり、パラメーターをコントロールすることができる端子です。

このアウトプット・セクションの4つの端子は使用目的がそれぞれ異なります。各端子の機能は、ユーザー・エディット・モードで次のページの表 [p.60]にあるオプションを選択することで設定できます。

7.2.1. Pitchアウト

この端子の典型的な使い方は、接続先した機器の音程コントロールです。KeyLab mkIIのキーボードで弾いたMIDIノート・ナンバーに応じてCVが出力されます。この端子はモノフォニック（単音）ですので、出力されるCVの優先度を設定する必要があります。低音優先のLow、高音優先のHigh、後着優先のLastから選択できます。

7.2.2. Gateアウト

キーボードのノート・オン/オフに応じてトリガー（ゲート）信号がこの端子から出力されます。一般的にはPitchアウトとペアで使用します。

この端子からの出力信号は、大別して2種類の信号を選択できます。接続する機器のトリガー仕様に合わせて設定できます。

7.2.3. Mod 1

この端子からはCVが出力され、最も典型的な使用法はVCA（ボルテージ・コントロールド・アンプリファイア）のコントロールです。本機のデフォルト設定では、この端子はキーボードのペロシティに応じたCVが出力されますが、ユーザー・エディット・モード [p.44]またはMCC [p.61]で変更できます。例えば、フェーダーやエンコーダーの動きをCVとして出力させることも可能です。また、出力するCVの上限電圧も設定できます。

7.2.4. Mod 2

この端子もCVを出力します。一般的にはVCF（ボルテージ・コントロールド・フィルター）のカットオフ・フリクエンシーをコントロールします。本機のデフォルト設定では、モジュレーション・ホイールの動きに応じたCVを出力しますが、ユーザー・エディット・モード [p.44]またはMCC [p.61]で変更できます。例えば、フェーダーやエンコーダーの動きをCVとして出力させることも可能です。また、出力するCVの上限電圧も設定できます。

7.2.5. パラメーター（ユーザー・エディット・モード）

7.2.5.1. CV Pitch

端子名 / ユーザー・エディット・モードでの名称	パラメーター	レンジ
Pitch Out / CV Pitch	Mode	Volt/Oct, Hz/Volt
	BaseNote OV [a]	フルMIDIノート・レンジ（デフォルト=C-2）
	BaseNote 1V [a]	フルMIDIノート・レンジ（デフォルト=CO）
	Note Priority	Low / High / Last
	Bend range	1~24半音
	Assign	Part 1, Part 2

[a] この2つのオプションは同時選択できません。

7.2.5.2. CV Gate

端子名 / ユーザー・エディット・モードでの名称	パラメーター	レンジ
Gate Out / CV Gate	Mode	S-Trig, V-Trig (5V, 12V)

7.2.5.3. CV Mod Out 1

端子名 / ユーザー・エディット・モードでの名称	パラメーター	レンジ
Mod 1 / CV Mod Out 1	Assign	自由に選択できます（デフォルト：ペロシティ）
	Volt range	1~10V

7.2.5.4. CV Mod Out 2

端子名 / ユーザー・エディット・モードでの名称	パラメーター	レンジ
Mod 2 / CV Mod Out 2	Assign	自由に選択できます（デフォルト：モジュレーション・ホイール）
	Volt range	1~10V

8. MIDI CONTROL CENTER

KeyLab mkIIはよく使うコントローラーをすぐに見えるように設計されています。フロントパネルでの設定エディットも素早く簡単に行なえますが、MIDI Control Center (MCC) を使うことでさらにクイックなエディットができます。本機がコンピュータと接続している場合、お使いのDAWなどのソフトウェアやインストゥルメントに合わせてMCCで本機の機能を設定できます。

8.1. MIDI Control Centerとの接続

MCCをダウンロードしてインストールが完了しましたら、KeyLab mkIIをコンピュータに接続してMCCを起動します。

MCCがKeyLab mkIIと自動的に接続し、メイン画面に本機の画像が表示されます。



♪: 複数のArturia機器をコンピュータに接続している場合、MCCのDeviceセクションにあるドロップダウンメニューからエディットしたい機器を指定できます。

これでKeyLab mkIIがMCCでエディットできる状態になりました。

8.1.1. デバイス・メモリー

MCCのデバイス・メモリー (Device Memories) セクションにはKeyLab mkIIのユーザー・プリセット10種類に対応する10種類のメモリーと、Analog LabとDAWモード用の読み出し専用メモリーの2種類が表示されます。

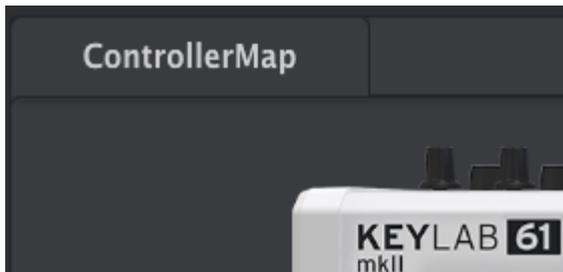
- **Analog Lab** - KeyLab mkIIでAnalog Lab 3を使用するためのメモリーです。これは読み出し専用でエディットできません。
- **DAW** - KeyLab mkIIでDAWをコントロールするためのメモリーです。読み出し専用なのでエディットできません。
- **User 1-10** - KeyLab mkIIのユーザー・プリセット1~10に相当するメモリーで、使用法などに合わせてエディットできます。
- **Store to** - その時選択していたテンプレートをKeyLab mkIIのユーザー・エリアに保存する機能です。
- **Recall from** - KeyLab mkIIのユーザー・プリセットを選択してMCC上に立ち上げてエディットする時に使用する機能です。MCC上でエディットすると、その内容がKeyLab mkIIのユーザー・プリセットにも反映されて保存されます。

8.1.2. ローカル・テンプレート

ローカル・テンプレート・セクションでは、KeyLab mkIIのユーザー・プリセットをMCCに立ち上げることなく保存したり並べ替えることができます。また、Arturiaユーザー・コミュニティでシェアされている既製のコントロール・マップをロードすることも可能です。

- **Factory templates** - KeyLab mkIIのデフォルト設定が表示されます。プリセットを工場出荷時の状態に戻したい場合に便利です。
- **User templates** - KeyLab mkIIのユーザー・プリセットをMCCに立ち上げて表示します。他のユーザーが作成したものをMCCにインポートしてテンプレートにすることもできます。
- **Save** - エディットした内容を同じユーザー・テンプレートに上書き保存します。
- **Save As** - 別名のユーザー・テンプレートとして保存します。
- **New** - ユーザー・テンプレートを新規作成します。
- **Delete** - 選択したユーザー・テンプレートを削除します。
- **Import** - 既製のユーザー・テンプレートをファイル・ブラウザからインポート（読み込み）します。インポートしたいテンプレートを選択して**Open**をクリックするとインポートします。
- **Export** - ユーザー・テンプレートを指定した場所にエクスポート（書き出し）します。エクスポート先を指定してファイル名を付けてください。

8.2. MCCコントローラー・マップ



MCCの画面左コーナーには**ControllerMap**というタブがあります。このタブではKeyLab mkIIのパッドやエンコーダー、フェーダーやキーボード、ペダル端子、CVインとアウトの設定をカスタマイズできます。ここでカスタマイズした設定はKeyLab mkIIのユーザー・プリセットに保存できます。

エディットしたいパラメーターを選択するには、画面に表示されているフロントパネルやリアパネルのコントローラーや端子をクリックします。

 KeyLab mkIIのコントローラーの中には、トランスポート・コントロールのようにエディットできないものがあります。

以下のセクションからは、KeyLab mkIIの各コントローラーで選択できるオプションについてご紹介します。画面表示の上から下、左から右という順にご紹介します。

8.3. ホイールのカスタマイズ



♪ Part 2や両方のパートはスプリット・モードがオンの場合（KeyLab mkIIのキーボードでPart 2を演奏できる状態）にのみ関係します。

8.3.1. ピッチ・ベンド

ピッチ・ベンド・ホイールはピッチ・ベンドに機能が固定されていて、他のMIDIメッセージに振り替えることはできません。ピッチ・ベンドはPart 1、Part 2または両方のパートが選択できます。

8.3.2. モジュレーション

- **Mode:** "Control"を選択すると残りのパラメーターが表示され、"Off"を選択するとPart 1とPart 2でモジュレーション・ホイールを使用しない設定になります。
- **Channel:** モジュレーション・ホイールの効果がかかるパートをPart 1、Part 2または両方のパートから選択します。
- **CC Number:** モジュレーション・ホイールから送信するMIDI CC#を設定します。デフォルト設定ではMIDI CC#1ですが、他のMIDI CC#に振り替えることもできます。
- **Min Value:** 画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに入力してモジュレーション・ホイールから送信されるMIDIメッセージの最低値を設定します。
- **Max Value:** 画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに入力してモジュレーション・ホイールから送信されるMIDIメッセージの最高値を設定します。

8.4. ユーザー・チャンネルの選択

ホイールとパッドの間にMIDI Chと書かれた小さなボタンがあります。このボタンをクリックするとKeyLab mkIIのユーザーMIDIチャンネルを設定できます。



♪ MIDIチャンネルを"User"に設定したコントローラーがある場合は、MIDI Chボタンで設定したMIDIチャンネルに設定されます。

8.5. パッドのカスタマイズ

モード・メニューで各パッドの動作モードを個別に選択できます。各モードには次のようなパラメーター・セットが入っています：

8.5.1. Pad Off

パッドがオフになります。パッドを誤ってトリガーさせたくない場合に便利です。

8.5.2. Pad MIDI Note

パッドで通常MIDIノートを送信する場合にこのオプションを使用します。

- **Color:** パッドを操作した時の点灯色を選択します。
- **Option:** ゲートまたはトグルを選択します。ゲートはパッドを押している間だけオンになり、トグルはパッドを一度押すとオンまたはオフになり、もう一度押すとオフまたはオンになります。
- **Channel:** パッドのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **Note:** パッドの操作時に送信されるMIDIノートをC-2~G8の範囲で選択します。

MIDIノートのデフォルト設定は[こちら \[p.13\]](#)をご参照ください。

8.5.3. Padスイッチ・コントロール

パッドを押してMIDI CC#の2つの値をスイッチ的に送信する場合のオプションです。

- **Color:** パッド操作時の点灯色を選択します。
- **Option:** ゲートまたはトグルを選択します。ゲートはパッドを押している間だけオンになり、トグルはパッドを一度押すとオンまたはオフになり、もう一度押すとオフまたはオンになります。
- **Channel:** パッドのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **CC Number:** パッドから送信されるMIDI CC#を0~127の範囲で設定します。ドロップダウンメニューを開くと各MIDI CC#が一般的な使用名付きで表示されます。
- **Off Value:** パッドを放した時に送信するMIDI CC#の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。
- **On Value:** パッドを押した時に送信するMIDI CC#の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。

8.5.4. Padプログラム・チェンジ

KeyLab mkIIのパッドからプログラム・チェンジをバーチャル・インストゥルメントや外部のハードウェア・シンセなどに送信する場合のオプションです。

- **Color:** パッド操作時の点灯色を選択します。
- **Channel:** パッドから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **Program Number:** パッドを押した時に送信するMIDIプログラム・ナンバーを0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。
- **Bank LSB:** パッドを押した時に送信するバンク・セレクトの下位バイト (MIDI CC#32) を0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。MIDIバンク・セレクト・メッセージに対応していない機器もありますので、その場合はお使いの機器やソフトウェア・インストゥルメントの取扱説明書をご参照ください。
- **Bank MSB:** パッドを押した時に送信するバンク・セレクトの上位バイト (MIDI CC#0) を0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。MIDIバンク・セレクト・メッセージに対応していない機器もありますので、その場合はお使いの機器やソフトウェア・インストゥルメントの取扱説明書をご参照ください。

8.5.5. Padプリセット・チェンジ

KeyLab mkIIのユーザー・プリセットをパッドで切り替える場合のオプションです。

- **Color:** パッド操作時の点灯色を選択します。
- **User preset:** ユーザー・プリセットの番号を1~10の範囲で設定します。

8.6. Userボタンのカスタマイズ

UserボタンはKeyLab mkIIのフロントパネルのDAW Controls / Userセクションにあります。これらのボタンはDAWモードやAnalog LabモードではDAWのコントロールに使われますが、ユーザー・モードでは他の機能に割り当てることができます。ユーザー・モードに入ってもDAWモードでの機能名が表示されますが、実際には設定したMIDIメッセージを送信します。

Userボタンの動作モードは3種類あり、各ボタンで個別に設定できます。各モードには次のようなパラメーター・セットがあります：

8.6.1. User button Off

Userボタンの動作をオフにします。Userボタンを必要としないプリセットで誤って操作することを防ぎたい場合に便利です。

8.6.2. Userボタン・スイッチ・コントロール

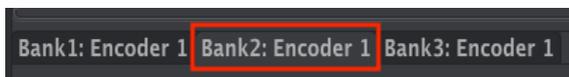
- **Option:** ゲートまたはトグルを選択します。ゲートはボタンを押している間だけオンになり、トグルはボタンを一度押すとオンまたはオフになり、もう一度押すとオフまたはオンになります。
- **Channel:** ボタンから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **CC Number:** ボタンから送信されるMIDI CC#を0~127の範囲で設定します。ドロップダウンメニューを開くと各MIDI CC#が一般的な使用名付きで表示されます。
- **Off Value:** ボタンを放した時に送信するMIDI CC#の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。
- **On Value:** ボタンを押した時に送信するMIDI CC#の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。

8.6.3. Userボタン・プログラム・チェンジ

- **Channel:** ボタンから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **Program Number:** ボタンを押した時に送信するMIDIプログラム・ナンバーを0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。
- **Bank LSB:** ボタンを押した時に送信するバンク・セレクトの下位バイト (MIDI CC#32) を0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。MIDIバンク・セレクト・メッセージに対応していない機器もありますので、その場合はお使いの機器やソフトウェア・インストールメントの取扱説明書をご参照ください。
- **Bank MSB:** ボタンを押した時に送信するバンク・セレクトの上位バイト (MIDI CC#0) を0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。MIDIバンク・セレクト・メッセージに対応していない機器もありますので、その場合はお使いの機器やソフトウェア・インストールメントの取扱説明書をご参照ください。

8.7. エンコーダーのカスタマイズ

エンコーダーには3つのバンクがあり、Bankタブで切り替えることができます。



エンコーダーBank 2を選択した状態

エンコーダーの動作モードは3種類あり、各エンコーダーで個別に設定できます。各モードには次のようなパラメーター・セットがあります：

8.7.1. Encoder Off

エンコーダーの動作をオフにします。エンコーダーを必要としないプリセットで誤って操作することを防ぎたい場合に便利です。

8.7.2. Encoder Control

- **Name:** エンコーダーを操作した時にディスプレイに表示される機能名などを入力します。最長12文字まで入力できます。
- **Option:** エンコーダーの反応モードを絶対モードまたは**相対モード** [p.68]に切り替えます。
- **Acceleration:** エンコーダーを素早く回した時にどのように反応するかを次のオプションから選択します：
 - *None:* エンコーダーを回すスピードに反応しません。
 - *Medium:* ある程度反応します。
 - *Fast:* よりクイックに反応します。
 - *1:1:* エンコーダーを回すスピードに正確に反応します。
- **Channel:** エンコーダーから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合は**MIDI Chボタン** [p.63]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **CC Number:** エンコーダーから送信されるMIDI CC#を0~127の範囲で設定します。ドロップダウンメニューを開くと各MIDI CC#が一般的な使用名付きで表示されます。
- **Min Value & Max Value:** エンコーダーから送信されるMIDI CC#の最低値と最高値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。

 Mix & Max Valueの設定は、例えばシンセのボリュームなど特定の範囲でだけ変化させたいパラメーターをコントロールしたい場合に便利です。

8.7.2.1. 相対コントロール

Encoder ControlモードのOptionで"Relative"を選択すると、エンコーダーを回す方向やスピードに応じて割り当てたパラメーターの値を少しだけ変化させることができます。

具体的には、例えばエンコーダーをマイナス方向へ回すと値の61~63が送信され、プラス方向へ回すと65~67の値が送信されます。この時に送信される値はエンコーダーを回すスピードによって変わります。実際の値の設定につきましては、コントロールする機器やパラメーターによって変わりますので、それぞれの説明書等をご参照ください。

"Relative"に設定した場合、エンコーダーを回すとコントロールするパラメーターのその時の値を出発点に値が変化します。この点が、エンコーダーを回した瞬間にパラメーターの値が急激に変化する絶対モード (Absolute) とは異なる点です。

相対モード (Relative) ではエンコーダーの操作時にパラメーターの値が急激にジャンプしませんので、ボリュームやフィルター、エフェクトなどのパラメーターのコントロールに好都合です。

8.7.3. エンコーダーRPN / NRPN

エンコーダーはRPN（レジスタード・パラメーター・ナンバー）とNRPN（ノンレジスタード・パラメーター・ナンバー）の送信も可能です。この2種類のナンバーは様々なメーカーの機器で独自に設定している外部コントロールのためのパラメーター番号です。RPN/NRPNの対応などの詳細は、ご使用の機器の説明書等をご参照ください。

- **Option:** RPN/NRPNを送信するかどうかを設定します。
- **Channel:** 選択したエンコーダーから送信するMIDIチャンネルを1～16の範囲で選択します。"User"に設定することもでき、この場合RPN/NRPNはMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルで送信されます。
- **RPN / NRPN LSB:** 選択したエンコーダーから送信されるRPN/NRPNの値の下位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0～127の数値を入力することで設定できます。
- **RPN / NRPN MSB:** 選択したエンコーダーから送信されるRPN/NRPNの上位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0～127の数値を入力することで設定できます。

8.8. フェーダーのカスタマイズ

フェーダーには3つのバンクがあり、Bankタブで切り替えます：



フェーダーBank 2を選択した状態

フェーダーの動作モードは3種類あり、各フェーダーで個別に設定できます。各モードには次のようなパラメーター・セットがあります：

8.8.1. Fader Off

フェーダーの動作をオフにします。フェーダーを必要としないプリセットで誤って操作することを防ぎたい場合に便利です。

8.8.2. Fader Control

この動作モードがフェーダーのデフォルト設定で、以下の設定パラメーターがあります：

- **Name:** フェーダーを操作した時にディスプレイに表示される機能名などを入力します。最長12文字まで入力できます。
- **Option:** フェーダーの機能を一般的なフェーダー (Fader) とパーシャル・オルガン・インストゥルメントのコントロールに便利なドローパー (Drawbar) のどちらかに切り替えます。
- **Channel:** 選択したフェーダーのMIDIチャンネルを1~16の範囲で選択します。"User"に設定することもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **CC Number:** 選択したフェーダーから送信するMIDI CC#を0~127の範囲で設定します。ドロップダウンメニューを開くと各CC#に対応した機能名が表示されます。
- **Min Value & Max Value:** フェーダーから送信するMIDIメッセージの最低値と最高値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。

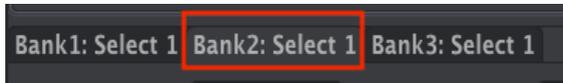
8.8.3. Fader RPN / NRPN

フェーダーはRPN (レジスタード・パラメーター・ナンバー) とNRPN (ノンレジスタード・パラメーター・ナンバー) の送信も可能です。この2種類のナンバーは様々なメーカーの機器で独自に設定している外部コントロールのためのパラメーター番号です。RPN/NRPNの対応などの詳細は、ご使用の機器の説明書等をご参照ください。

- **Option:** RPN/NRPNを送信するかどうかを設定します。
- **Channel:** 選択したフェーダーから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で選択します。"User"に設定することもでき、この場合RPN/NRPNはMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルで送信されます。
- **RPN / NRPN LSB:** 選択したフェーダーから送信されるRPN/NRPNの値の下位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **RPN / NRPN MSB:** 選択したフェーダーから送信されるRPN/NRPNの上位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。

8.9. Selectボタンのカスタマイズ

Selectボタンには3つのバンクがあり、Bankタブで切り替えます：



SelectボタンBank 2を選択した状態

Selectボタンの動作モードは4種類あります。各モードには次のようなパラメーター・セットがあります：

8.9.1. SelectボタンOff

Selectボタンの動作をオフにします。Selectボタンを必要としないプリセットで誤って操作することを防ぎたい場合に便利です。

8.9.2. Selectボタン・スイッチ・コントロール

- **Option:** ゲートまたはトグルを選択します。ゲートはボタンを押している間だけオンになり、トグルはボタンを一度押すとオンまたはオフになり、もう一度押すとオフまたはオンになります。
- **Channel:** 選択したボタンのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.63]で設定したチャンネルになります。
- **CC Number:** 選択したボタンから送信するMIDI CC#を0~127の中から選択します。ドロップダウンメニューを開くと各CC#に対応した機能名が表示されます。
- **Off Value:** ボタンを放した状態の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。
- **On Value:** ボタンを押した状態の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。

8.9.3. SelectボタンRPN / NRPN

SelectボタンはRPN (レジスタード・パラメーター・ナンバー) とNRPN (ノンレジスタード・パラメーター・ナンバー) の送信も可能です。この2種類のナンバーは様々なメーカーの機器で独自に設定している外部コントロールのためのパラメーター番号です。RPN/NRPNの対応などの詳細は、ご使用の機器の説明書等をご参照ください。

- **Option:** RPN/NRPNを送信するかどうかを設定します。
- **Channel:** 選択したボタンのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合RPN/NRPNはMIDI Chボタン [p.63]で設定したMIDIチャンネルで送信されます。
- **RPN / NRPN LSB:** ボタンから送信されるRPN/NRPNの値の下位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **RPN / NRPN MSB:** ボタンから送信されるRPN/NRPNの値の上位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。

8.9.4. Selectボタン・プログラム・チェンジ

- **Channel:** 選択したボタンのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合はMIDI Ch [p.63]ボタンで設定したチャンネルになります。
- **Program Number:** ボタンを押した時に送信されるMIDIプログラム・ナンバーを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **Bank LSB:** ボタンを押した時に送信されるバンク・セレクトの下部バイト (MIDI CC#32) を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。Bank LSBに対応していない機器もありますので、コントロールしたいハードウェアやソフトウェアの説明書等でご確認ください。
- **Bank MSB:** ボタンを押した時に送信されるバンク・セレクトの上部バイト (MIDI CC#0) を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。Bank MSBに対応していない機器もありますので、コントロールしたいハードウェアやソフトウェアの説明書等でご確認ください。

8.10. キーボードのカスタマイズ

KeyLab mkIIのキーボードもMIDI Control Centerでカスタマイズできます。

 Part 2関連とスプリット・ポイントの各種設定はスプリット・モードがオンの場合に表示されます。また、Part 2や両方のパートに関連したパラメーターはKeyLab mkIIのスプリット・モードがオフの場合は無効となります。

- **Part 1 Channel:** Part 1のMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合Part 1はMIDI Chボタン [p.63]で設定したチャンネルになります。
- **Part 1 Semi:** Part 1のトランスポーズを設定します。-11~+11の半音単位で設定できます。
- **Part 1 Octave:** Part 1のオクターブ・シフトを-3~+3の範囲で設定します。
- **Velocity Curve:** ベロシティ・カーブを次の3種類から選択します：リニア (Lin)、ログ (Log)、エクスポンENTIAL (Exp)。この設定はPart 1とPart 2の両方にかかります。
- **Split Mode:** スプリット・モードのオン/オフ切替です。オフの場合、Part 1のみが使用でき、このリストの以下のパラメーターは表示されません。オンの場合、Part 2も使用でき、このリストの以下のパラメーターが表示されます。Part 1はスプリット・ポイントの右側 (高音側)、Part 2は左側 (低音側) になります。
- **Split Point:** Part 1とPart 2のスプリット・ポイントを設定します。
- **Part 2 Channel:** Part 2のMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合Part 2はMIDI Chボタン [p.63]で設定したチャンネルになります。
- **Part 2 Semi:** Part 2のトランスポーズを設定します。-11~+11の半音単位で設定できます。
- **Part 2 Octave:** Part 2のオクターブ・シフトを-3~+3の範囲で設定します。
- **Oct buttons assign:** Octaveボタンを押した時にPart 1またはPart 2のどちらのオクターブが変化するかを設定します。
- **Trans button assign:** トランスポーズをした時にどちらのパートがトランスポーズするかを設定します。
- **Chord button assign:** Chordボタンで設定したコードをどちらのパートで演奏するかを設定します。ここでの設定はコード・トランスポーズ・モードを使用した時にパッドが有効になるパート選択も兼ねています。
- **Aftertouch assign:** アフタータッチがかかるパートを選択します。

 キーボードのアフタータッチ反応カーブはDevice Settingsタブで設定します。この設定はグローバル・パラメーターですので、テンプレートごとに設定することはできません。

8.11. CVインのカスタマイズ

リアパネルのCVイン端子の設定は、本機のフロントパネルでの操作またはMIDI Control Centerで変更でき、次のようなパラメーターがあります：

8.11.1. Mod CV max voltage

入力するCVの上限電圧を1~10Vの範囲で設定します。メーカーや機器によってCV電圧の仕様が異なりますので、お使いになる機器に合わせて設定してください。

8.11.2. Mod CV Mode menu

モード・メニューには2つのモードがあり、それぞれに独自のパラメーター・セットがあります：

8.11.2.1. Mod CV Off

CVイン端子をオフにします。CVインを必要としないユーザー・プリセットで誤操作を防ぎたい場合に便利です。

8.11.2.2. Mod CV Control

- **Channel:** CVインからの信号をMIDIメッセージに変換して送信する際のMIDIチャンネルを1~16の範囲で選択します。"User"も選択でき、この場合はCVインからの信号はMIDI Ch ボタン [p.63]で設定したチャンネルで送信されます。
- **CC Number:** CVインからの信号を0~127のMIDI CC#に変換します。ドロップダウンメニューを開くとCC#に対応した機能名が表示されます。
- **Min Value & Max Value:** CVインからの信号をMIDI CC#に変換した場合の最低値と最高値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。

8.12. ペダルのカスタマイズ



♪ 5つのペダル・インプットのパラメーターはすべて同じですので、このセクションでまとめてご紹介します。

ペダル・インプットには4つのモードがあり、それぞれに独自のパラメーター・セットがあります：

8.12.1. Pedal Off

選択したペダル端子をオフにします。ペダルを必要としないユーザー・プリセットで誤操作を防ぎたい場合に便利です。

8.12.2. Pedal Control

このモードでは各ペダルの動作を設定できます。

- **Channel:** 選択したペダルのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合そのペダルはMIDI Chボタン [p.63]で設定したチャンネルになります。
- **CC Number:** 選択したペダルで使用するMIDI CC#を0~127の中から選択します。ドロップダウンメニューを開くとCC#に対応した機能名が表示されます。
- **Min Value & Max Value:** 選択したペダルから送信するMIDI CCの最低値と最高値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。



♪ Controlモードを使用する場合、[Device Settingsタブ \[p.77\]](#)にある[Continuous Pedal Calibration \[p.78\]](#)パラメーターでペダルの物理的な可動範囲のキャリブレーションができます。

8.12.3. Pedalスイッチ・コントロール

ペダル端子にフットスイッチやスイッチ・タイプのペダルを接続して使用する場合の設定パラメーターです。

- **Option:** ゲートまたはトグルを選択します。ゲートはフットスイッチやペダルを踏んでいる間だけオンになり、トグルはフットスイッチやペダルを一度踏むとオンまたはオフになり、もう一度踏むとオフまたはオンになります。
- **Channel:** 選択したフットスイッチやペダルのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合そのフットスイッチやペダルはMIDI Chボタン [p.63]で設定したチャンネルになります。
- **CC Number:** 選択したフットスイッチやペダルで使用するMIDI CC#を0~127の中から選択します。ドロップダウンメニューを開くとCC#に対応した機能名が表示されます。例えば、サステイン・ペダルとして使用する場合はCC#64に設定します。
- **Off Value:** フットスイッチやペダルを放した時に送信されるCC#の値を設定します。外部機器やプラグインによってはこの値を0にする必要があるものもあります。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。
- **On Value:** フットスイッチやペダルを踏んだ時に送信されるCC#の値を設定します。

 5つのペダル端子はいずれもKeyLab mkIIの電源投入時に接続したフットスイッチやペダルの極性を自動検出します。ペダル端子のモードをSwitchedにしておくと、より正確に検出します。このモード設定はグローバル・パラメーターではなく、ユーザー・プリセットごとに設定できます。

8.12.4. ペダル・プログラム・チェンジ

この機能を使用するとペダル端子に接続したペダル類でMIDIプログラム・チェンジを送信できます。

- **Channel:** 選択したペダル類のMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合そのペダル類はMIDI Chボタン [p.63]で設定したチャンネルになります。
- **Program Number:** ペダル類を操作した時に送信されるMIDIプログラム・ナンバーを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **Bank LSB:** ペダル類を操作した時に送信するバンク・セレクトの下位バイト (MIDI CC#32) を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。接続する機器等によってはBank LSBに対応していない機種もありますので、接続する機器等の説明書でご確認ください。
- **Bank MSB:** ペダル類を操作した時に送信するバンク・セレクトの上位バイト (MIDI CC#0) を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。接続する機器等によってはBank MSBに対応していない機種もありますので、接続する機器等の説明書でご確認ください。

8.13. Pitchアウトのカスタマイズ

MIDI Control Centerの画面に表示されているリアパネルのCVアウト端子をクリックすると、次の設定をカスタマイズできます。

- **Pitch CV Output:** 2種類の規格があります：1V/OctとHz/Vです。ここでの選択に応じて次のパラメーターのどちらかが有効になります。接続するハードウェア機器の仕様に合わせてこのパラメーターを設定してください。
- **OV MIDI note (Volts per Octave selected):** Pitch CV Outputパラメーターで1V/Octを選択した場合に有効になるパラメーターです。デフォルト設定はC-2 (MIDIノート・ナンバー=0) ですが、C-2~G8の範囲で自由に設定できます。
- **1V MIDI note (Hertz per Volt selected):** Pitch CV OutputパラメーターでHz/Vを選択した場合に有効になるパラメーターです。デフォルト設定はCO (MIDIノート・ナンバー=24) ですが、C-2~G8の範囲で自由に設定できます。
- **Note Priority:** Pitchアウト端子はモノフォニック (単音) ですが、KeyLab mkIIのキーボードはポリフォニックですので、複数の鍵盤を同時に弾いた場合にどちらの音程をCVとして出力するかを、このパラメーターで設定します。**Low**は複数の鍵盤を同時に弾いた時の最低音が優先されます (低音優先)。**High**は同様の場合に最高音が優先されます (高音優先)。**Last**は同様の場合に最後に弾いた音が優先されます (後着優先)。
- **Pitch Bend Range (Semi-tones):** KeyLab mkIIのピッチ・ホイールを操作した時のCVの変化量を1半音~24半音 (2オクターブ) の範囲で設定します。
- **Pitch Assignment:** CVを出力するパートをPart 1またはPart 2のどちらかに選択します。

8.14. Gateアウトのカスタマイズ

Gateアウト端子は本機のキーボード演奏で発生するノート・オン/オフ情報をトリガー信号として出力します。この端子にはS-Trig 5V、V-Trig 5V、V-Trig 12Vの3種類の動作モードがあります。接続するハードウェア機器の説明書等でご確認ください。

8.15. Mod 1 / Mod 2アウトのカスタマイズ

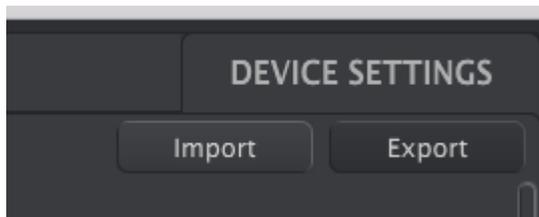


♪ Mod 1もMod 2も設定パラメーターは同じですので、ここでまとめてご紹介します。

この2つのModアウト端子でモジュラー・シンセサイザーのパラメーターを連続的にコントロールすることができます。

- **Mod CV Source:** Modアウトから出力するCVのソースを設定します。デフォルト設定はキーボード・ベロシティですが、KeyLab mkIIから送信できる連続的なコントロールに変更できます。Selectボタンも選択できますが、その場合はボタンを押した時に次のパラメーターで設定した最高値が出力され、ボタンを放すと最低値が出力されます。
- **Mod CV max voltage:** 選択したソースから出力されるCVの最高値を1~10Vの範囲で設定します。接続する機器の説明書等で仕様をご確認の上、設定してください。

8.16. Device Settingsタブ



MIDI Control Centerの画面右上には**Device Settings**というタブがあります。このタブにはKeyLab mkIIのグローバル設定のためのパラメーターが入っています。このタブには複数のセクションがあり、それぞれにいくつかのパラメーターがあります。ここでは、その各パラメーターについてご説明します。

8.16.1. グローバル・パラメーター・セクション

- **Low Power Mode:** このパラメーターがオンの場合、KeyLab mkIIの電源投入時のLED電飾シーケンスとヴェガス・モードがオフになります。
- **Vegas Mode:** KeyLab mkIIの操作を何もしないまま約5分が経過すると、見て楽しいカラフルなライトショーがスタートします。ライトショーが不要な場合はこのパラメーターをオフに設定します。
- **User Fader Mode:** KeyLab mkIIのユーザー・モードでのフェーダーの反応方法を次の2種類から選択します：
 - **Pickup:** フェーダーの位置が前回最後に送信した値と同じになるまでは、フェーダーを動かしても何も変化しません。この設定は3バンク分のフェーダーを使う場合に重要で、例えばバンク1からバンク2に切り替えていくつかのフェーダーを操作し、再びバンク1に戻った時にバンク1でコントロールしているパラメーターの値を急激に変化させたくない場合に便利です。
 - **Jump:** フェーダーを動かすと、それ以前の状態に関係なくパラメーターの値が瞬時にフェーダーの位置と一致します。

8.16.2. DAWセクション

- **DAW Map:** KeyLab mkIIで使用するDAWプリセットを選択します。DAWプリセットのリストは[こちら \[p.32\]](#)にあります。
- **DAW Fader Mode:** DAWコントロール時のKeyLab mkIIのフェーダーの反応方法を次の2種類から選択します：
 - **Pickup:** KeyLab mkIIのフェーダーの位置がDAWのフェーダーの位置になるまでは何も変化しません。
 - **Jump:** KeyLab mkIIのフェーダーを動かした瞬間にDAWのフェーダーがその位置にジャンプします。

8.16.3. Analog Labセクション

- **Key Velocity Curve:** Analog Labモードでのベロシティ・カーブを設定します。設定にはリニア (Lin)、ログ (Log)、エクスポネンシャル (Exp) の3種類があります。
- **Sustain Pedal Mode:** KeyLab mkIIのサステイン・ペダル端子の動作をスイッチ的なコントロールに適した**Switched Control**またはパラメーターなどの連続的なコントロールに適した**Control**のいずれかに設定します。

8.16.4. Padsセクション

- **Pads Velocity Curve:** パッドのベロシティ・カーブをリニア (Lin)、ログ (Log)、エクスポンENTIAL (Exp) の3種類から選択します。
- **Pads Aftertouch Curve:** パッドのアフタータッチ・カーブをリニア (Lin)、ログ (Log)、エクスポンENTIAL (Exp) の3種類から選択します。
- **Pads Aftertouch Min:** パッドのアフタータッチの最低値を設定します。
- **Pads Aftertouch Max:** パッドのアフタータッチの最高値を設定します。

8.16.5. Keysセクション

- **Keys Aftertouch Curve:** キーボードのアフタータッチ・カーブをリニア (Lin)、ログ (Log)、エクスポンENTIAL (Exp) の3種類から選択します。
- **Keys Aftertouch Min:** キーボードのアフタータッチの最低値を設定します。
- **Keys Aftertouch Max:** キーボードのアフタータッチの最高値を設定します。

8.16.6. MIDI Thruセクション

MIDI端子とUSBポートでの信号の流れ方を双方向にするか、一方通行にするか、あるいはオフにするかを設定します。

- **MIDI IN to USB:** このパラメーターがオンの場合、MIDIインに入った信号がUSBポート経由でDAWやその他のUSB機器へスルーされます。オフの場合はスルーしません。
- **USB to MIDI Out:** このパラメーターがオンの場合、USBポートに入った信号がMIDIアウトにスルーされます。オフの場合はスルーしません。

8.16.7. コンティニューアス・ペダル・キャリブレーション



5つのペダル端子のパラメーターはすべて同じですので、まとめてご紹介します。

ペダル端子の動作モードをControl (反対の設定はSwitched Control) に設定した場合、ペダルの可動範囲に合わせてペダル端子の動作を設定できます。

- **Pedal Min:** ペダルを完全に戻した位置での値を設定します。
- **Pedal Max:** ペダルを完全に踏み込んだ位置での値を設定します。

8.17. ImportとExportボタン

KeyLab mkIIのすべてのデバイス設定 (Device Settings) を1つのファイルにまとめて書き出し (Export) たり、そうしたファイルを読み込む (Import) ことができます。書き出したファイルには .keylabmkII_dsの拡張子が付きます。

9. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアトリア製品代金の一部）により、アトリア社はライセンサーとしてお客様（被ライセンス）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アトリア社（以下アトリア）に帰属します。アトリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアによるレジストレーションの後に、使用可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

- 1. ソフトウェアの所有権** お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アトリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。
- 2. 譲渡の制限** お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アトリア社への書面による許諾無しにおこなうことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アトリア社は、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。
- 3. ソフトウェアのアクティベーション** アトリア社は、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。
- 4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート** 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アトリア社は、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アトリア社は、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。
- 5. 使用の制限** お客様は、常に1台のコンピューターで使用することを前提として、一時的に別のコンピューターにインストールして使用することができます。お客様はネットワークシステムなどを介した複数のコンピューターに、ソフトウェアをコピーすることはできません。お客様は、ソフトウェアおよびそれに付随する物を複製して再配布、販売等をおこなうことはできません。お客様はソフトウェアもしくはそれに付随する記載物等をもとに、改ざん、修正、リバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル、翻訳などをおこなうことはできません。
- 6. 著作権** ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は強く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 Arturia社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（仕事の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、Arturia社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があり、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

10. DECLARATION OF CONFORMITY

USA

Important notice: DO NOT MODIFY THE UNIT!

This product, when installed as indicate in the instructions contained in this manual, meets FCC requirement. Modifications not expressly approved by Arturia may avoid your authority, granted by the FCC, to use the product.

IMPORTANT: When connecting this product to accessories and/or another product, use only high quality shielded cables. Cable (s) supplied with this product **MUST** be used. Follow all installation instructions. Failure to follow instructions could void your FCC authorization to use this product in the USA.

NOTE: This product has been tested and found to comply with the limit for a Class B Digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide a reasonable protection against harmful interference in a residential environment. This equipment generate, use and radiate radio frequency energy and, if not installed and used according to the instructions found in the users manual, may cause interferences harmful to the operation to other electronic devices. Compliance with FCC regulations does not guarantee that interferences will not occur in all the installations. If this product is found to be the source of interferences, witch can be determined by turning the unit "OFF" and "ON", please try to eliminate the problem by using one of the following measures:

- Relocate either this product or the device that is affected by the interference.
- Use power outlets that are on different branch (circuit breaker or fuse) circuits or install AC line filter(s).
- In the case of radio or TV interferences, relocate/ reorient the antenna. If the antenna lead-in is 300 ohm ribbon lead, change the lead-in to coaxial cable.
- If these corrective measures do not bring any satisfied results, please the local retailer authorized to distribute this type of product. If you cannot locate the appropriate retailer, please contact Arturia.

The above statements apply **ONLY** to those products distributed in the USA.

CANADA

NOTICE: This class B digital apparatus meets all the requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulation.

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

EUROPE



This product complies with the requirements of European Directive 89/336/EEC

This product may not work correctly by the influence of electro-static discharge; if it happens, simply restart the product.